

いま見える未来は、超えていける。

安田倉庫は、挑戦を続けます。

国境も、従来の物流の枠も超える、ボーダレスなロジスティクスカンパニーへと進化するために。

そして、お客様が思い描く事業と社会の新しいかたちを創造するために。

2024年3月期 第2四半期決算説明会

安田倉庫株式会社（東証プライム：9324）

代表取締役社長 藤井信行

2023年11月17日

YASDA

Logistics, Progress, Borderless.

目次

1. 2024年3月期 第2四半期の実績	… 2
2. 2024年3月期 通期の見通し	…12
3. 成長戦略（長期ビジョン・中期経営計画）	…15
4. 企業価値向上・株主還元	…32
<参考資料>	
安田倉庫について	…35
業界環境統計	…43

1.

2024年3月期 第2四半期の実績

当社業績

(単位：百万円)

	連結			前年同期比		対外公表予想対比	
	23年3月期 2Q	24年3月期 2Q	対外公表 業績予想	増減額	増減率	増減額	増減率
営業収益	29,589	32,896	33,000	3,306	11.2%	△103	△0.3%
営業利益	1,229	1,141	1,100	△88	△7.2%	41	3.7%
経常利益	2,150	1,886	1,500	△264	△12.3%	386	25.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,409	1,175	1,000	△233	△16.6%	175	17.5%
営業利益率	4.2%	3.5%	3.3%	△0.7pt	-	0.1pt	-
1株当たり 四半期純利益(円)	48.65	40.59	34.53	△8.06	△16.6%	6.06	17.5%
EBITDA	3,687	4,083	-	395	10.7%	EBITDA=営業利益+租税公課+ 減価償却費+のれん償却費 で算出	
	23年3月期 末	24年3月期 2Q末		増減額	増減率		
総資産	166,005	183,551	-	17,546	10.6%		
純資産(*)	88,622	96,753	-	8,130	9.2%	(*)2022年2月実施のハイブ リッドローン150億円の うち、75%(112.5億円) をみなし資本として 算出	
自己資本比率(*)	53.2%	52.5%	-	△0.7pt	-		
1株当たり純資産(円) (*)	3,046.69	3,327.25	-	280.56	9.2%		

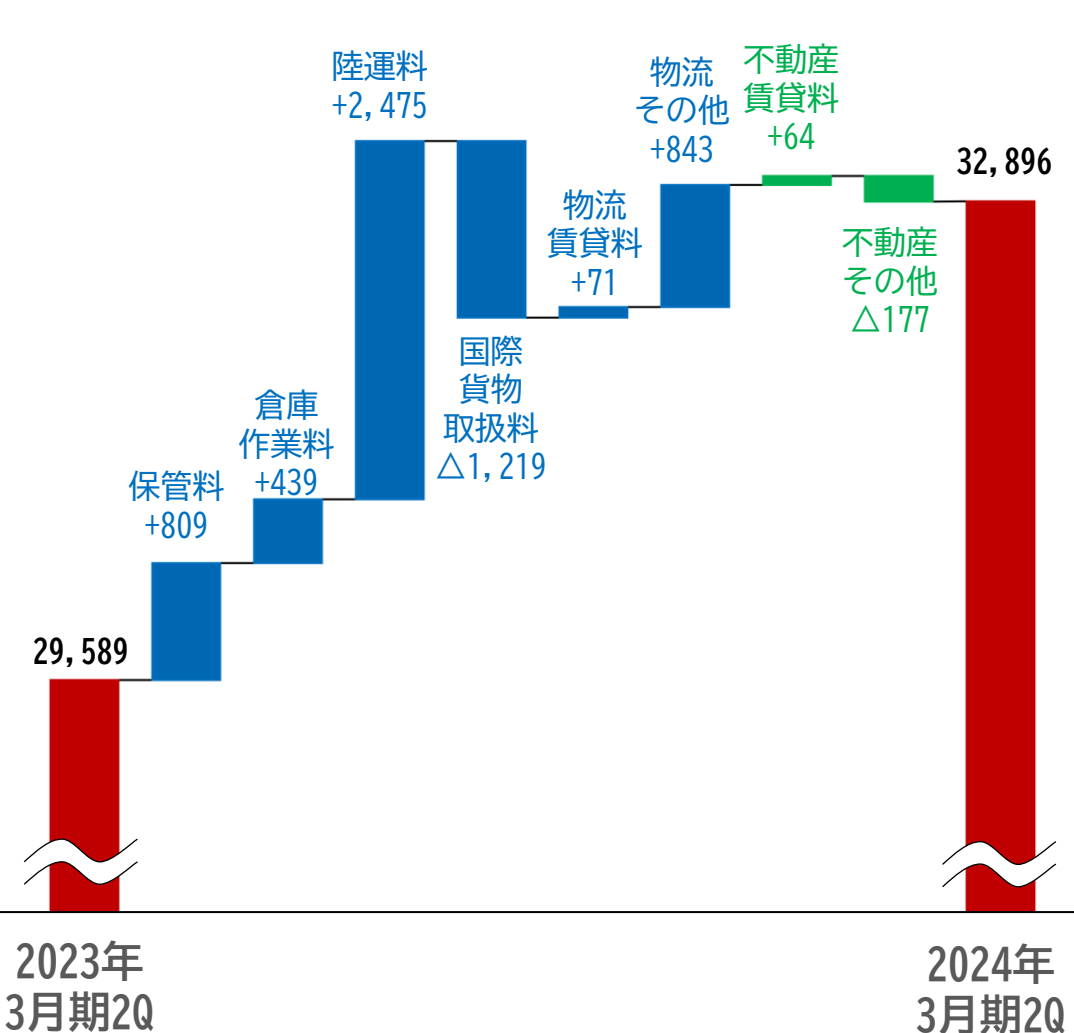
セグメント別業績

(単位：百万円)

	営業収益				営業利益			
	不動産 3,158 (10.6%) 調整額 △252 物流 26,684 (89.4%) 営業収益 29,589 23年3月期2Q		不動産 3,005 (9.1%) 調整額 △212 物流 30,103 (90.9%) 営業収益 32,896 24年3月期2Q		不動産 1,021 (41.2%) 調整額 △1,251 物流 1,460 (58.8%) 営業利益 1,229 23年3月期2Q		不動産 1,009 (40.1%) 調整額 △1,377 物流 1,509 (59.9%) 営業利益 1,141 24年3月期2Q	
	23年 3月期 2Q	24年 3月期 2Q	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率	23年 3月期 2Q	24年 3月期 2Q	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
物流事業	26,684	30,103	3,419	12.8%	1,460	1,509	49	3.4%
不動産事業	3,158	3,005	△152	△4.8%	1,021	1,009	△11	△1.1%
調整額	△252	△212	40	-	△1,251	△1,377	△125	-
計	29,589	32,896	3,306	11.2%	1,229	1,141	△88	△7.2%

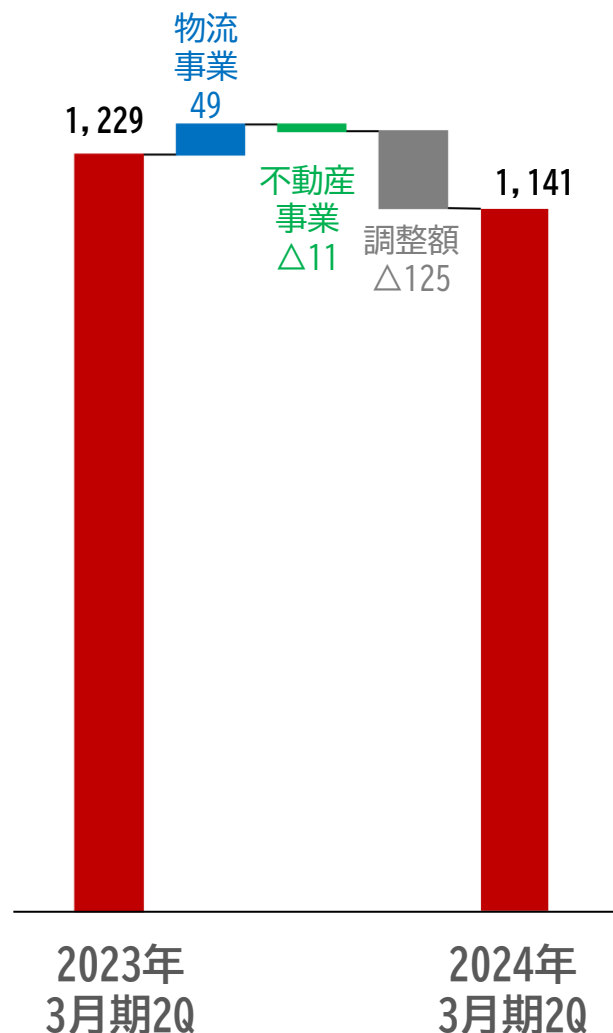
変動要因

営業収益



(単位：百万円)

営業利益



物流事業 物流施設推移

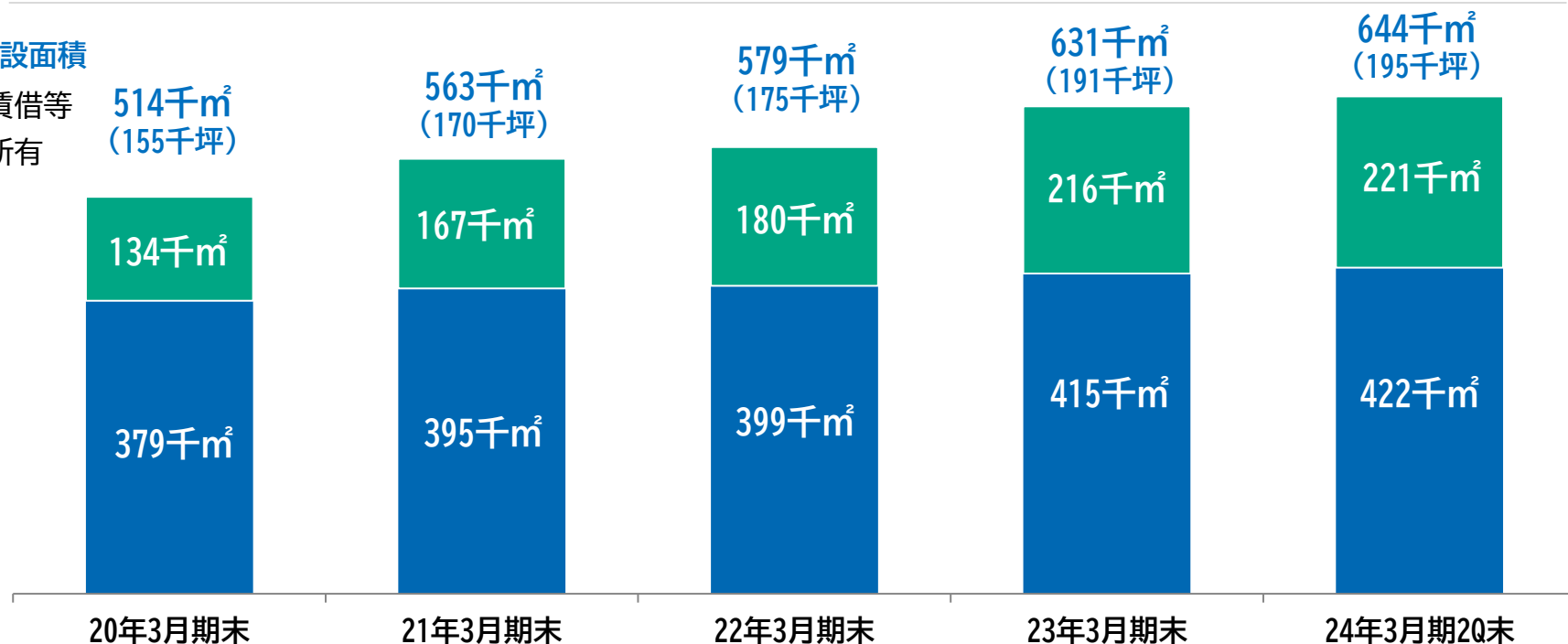
1㎡あたり物流事業収益

20年3月期～23年3月期：通期物流事業収益÷期末物流施設面積÷12カ月
 24年3月期2Q：2Q物流事業収益÷2Q末物流施設面積÷6カ月



物流施設面積

■ 賃借等
 ■ 所有



物流事業 科目別収益

(単位：百万円)

科目	概況	23年 3月期 2Q	24年 3月期 2Q	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
保管料	<ul style="list-style-type: none"> 既存物流施設の稼働率向上や今年グループ化のロジファーマ、YSOの収益寄与により前期比増収 	4,213	5,022	809	19.2%
倉庫 作業料	<ul style="list-style-type: none"> 今年グループ化のロジファーマ、YSOの収益寄与や外部の作業請負受託増により前期比増収 	4,371	4,810	439	10.0%
陸運料	<ul style="list-style-type: none"> 大型引越し案件受託や今年グループ化のロジファーマ、YSOの収益寄与により前期比大幅増収 	10,648	13,124	2,475	23.3%
国際 貨物 取扱料	<ul style="list-style-type: none"> インドネシアの取扱好調も、海上運賃の正常化、航空貨物需要の落ち着きにより前期比減収 	4,768	3,549	△1,219	△25.6%
物流 賃貸料	<ul style="list-style-type: none"> 既存物流施設の稼働率向上により前期比増収 	892	964	71	8.0%
物流 その他	<ul style="list-style-type: none"> 原薬販売やロジファーマ収益寄与により前期比増収 	1,781	2,625	843	47.4%

業界環境（物流）

倉庫（保管残高）

在庫積み増しが落ち着く
保管残高 前年同期比+ 0.5%
※倉庫21社統計23年4～8月

倉庫（入庫高・出庫高）

入庫を中心に荷動き伸び悩み
入庫高 前年同期比△ 4.2%
出庫高 前年同期比△ 0.3%
※倉庫21社統計23年4～8月

国内輸送（貨物自動車・宅配）

国内輸送量は伸び悩み
輸送(t) 前年同期比△ 1.9%
宅配個数 前年同期比△ 1.4%
※国交省統計輸送4～7月、宅配4～8月

輸出入（海上・航空）

海上：輸入減・輸出増(京浜港)
輸入(TEU) 前年同期比△10.6%
輸出(TEU) 前年同期比+ 1.3%
※東京都・横浜市港湾統計23年4～7月
航空：輸出入減(2019年並)
輸入(t) 前年同期比△24.8%
輸出(t) 前年同期比△26.0%
※航空貨物運送協会統計23年4～9月

不動産事業 科目別収益

(単位：百万円)

科目	概況	23年 3月期 2Q	24年 3月期 2Q	前年 同期比 増減額	前年 同期比 増減率
不動産 賃貸料	▶東京地区・横浜地区 各地区市況を大きく 下回る低空室率の 維持し、更なる高稼 働化により、前期比 増収	2,334	2,398	64	2.8%
不動産 その他	▶施工工事収益減少 により前期比減収	579	401	△177	△30.7%

業界環境（不動産）

東京・横浜不動産動向

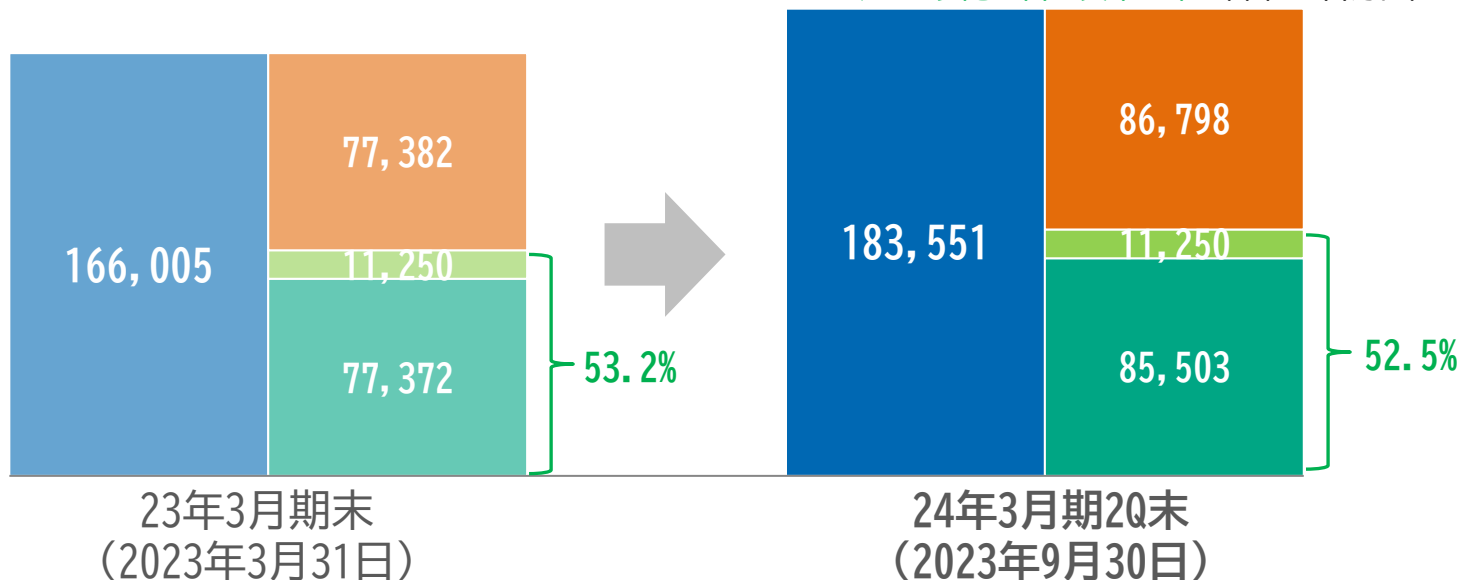
東京：空室率回復の兆し・賃料減
 22年9月空室率6.5% 賃料¥20,156/坪
 23年9月空室率6.2% 賃料¥19,750/坪
 (△0.3pt) (△2.0%)

横浜：空室率・賃料増加
 22年9月空室率5.1% 賃料¥12,478/坪
 23年9月空室率6.9% 賃料¥12,611/坪
 (+1.8pt) (+1.1%)

※三鬼商事(株)市況・データ情報

連結財政状態

注：%表記は自己資本比率（単位：百万円）

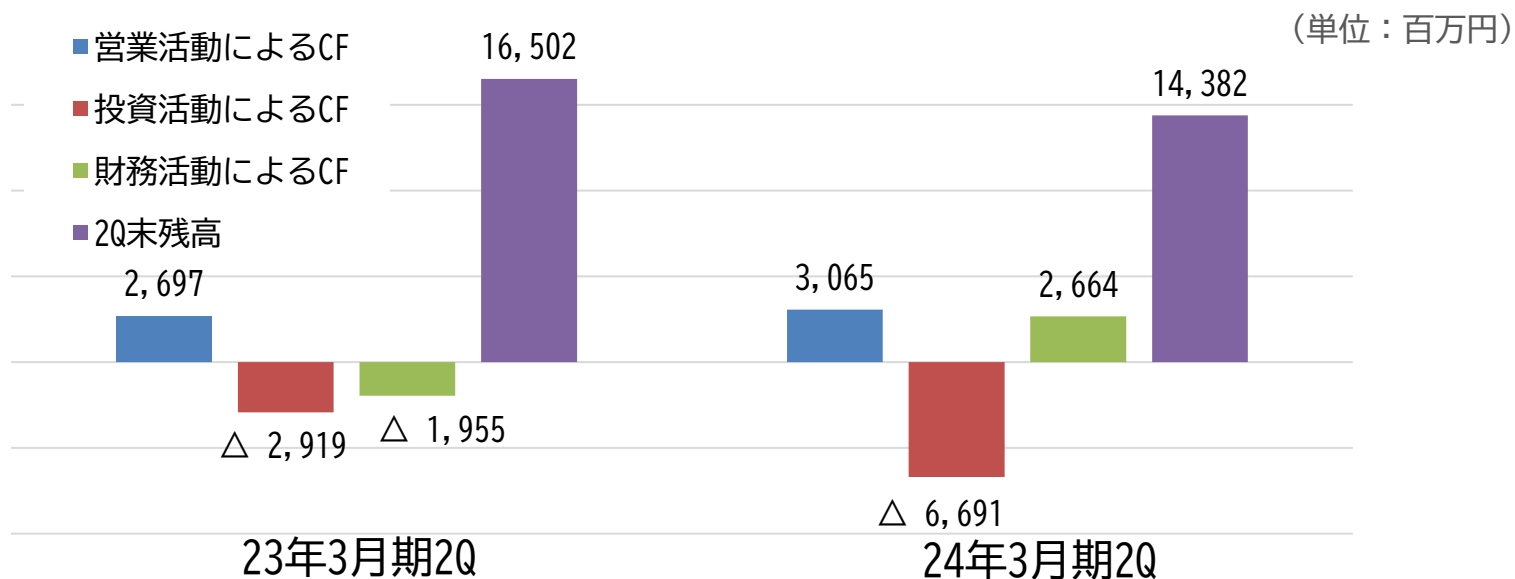


主な要因

■ 総資産	投資有価証券	(+10,161百万円)
	建設仮勘定	(+ 4,123百万円)
	土地	(+ 1,762百万円)
■ 負債	社債	(+ 6,468百万円)
	繰延税金負債	(+ 3,309百万円)
■ 純資産	みなし資本(*)	(± 0百万円)
	利益剰余金	(+ 782百万円)
	その他有価証券評価差額金	(+ 7,066百万円)

(*)2022年2月実施のハイブリッドローン150億円のうち、75%(112.5億円)をみなし資本として算出

キャッシュ・フローの状況



	23年3月期 2Q	24年3月期 2Q	前期比	主な要因
営業活動によるCF	2,697	3,065	+368	減価償却費の資金留保や純利益による収入など
投資活動によるCF	△2,919	△6,691	△3,771	有形固定資産、新たにグループ入りした子会社株式の取得など
財務活動によるCF	△1,955	2,664	+4,620	社債発行による収入など
2Q末残高	16,502	14,382	△2,119	

設備投資・借入金

(単位：百万円)

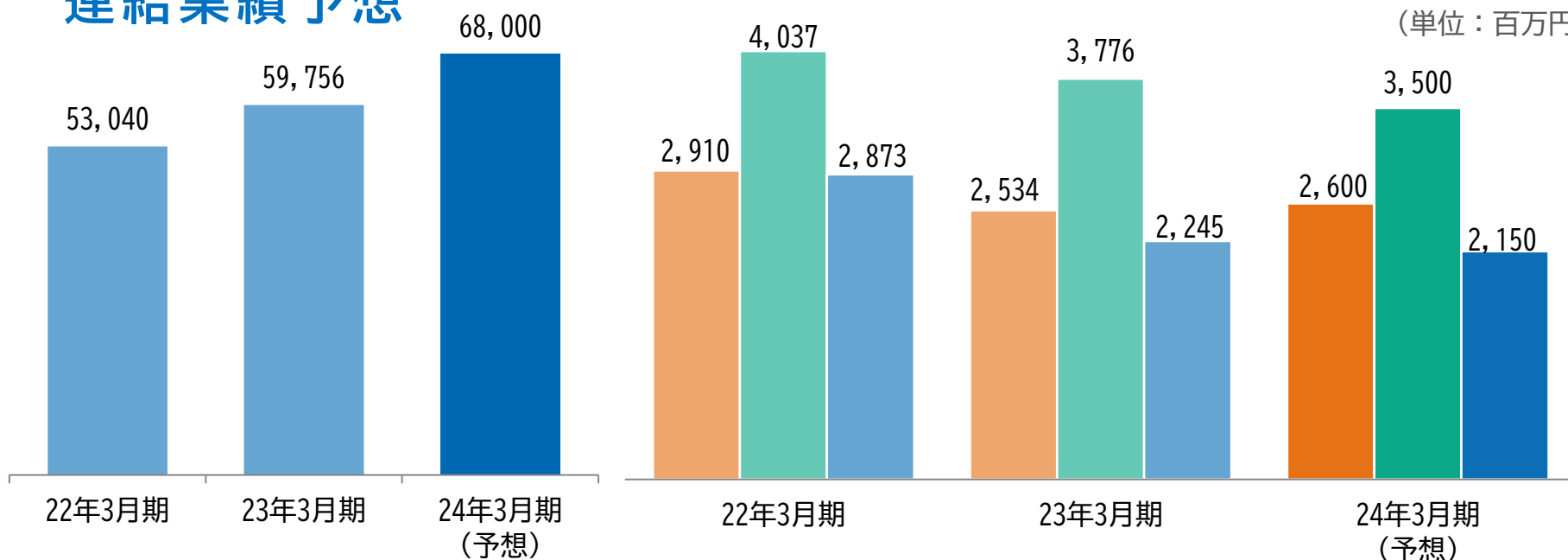
	23年3月期	24年3月期 2Q	24年3月期 (計画)
設備投資額	6,058	6,181	11,925
24年3月期			
主な投資案件		<ul style="list-style-type: none">・倉庫建設（北大桑）・DX・システムへの投資・既存物流・不動産施設の設備更新	
減価償却費	3,603	2,017	4,054
期末借入金残高 及び社債発行残高	59,294	64,566	74,500

2.

2024年3月期 通期の見通し

連結業績予想

(単位：百万円)



	前期比	
	増減額	増減率
■ 営業収益	8,243	13.8%

	前期比	
	増減額	増減率
■ 営業利益	65	2.6%
■ 経常利益	△276	△7.3%
■ 親会社株主に帰属する当期純利益	△95	△4.3%

- 営業収益は、取引拡大による既存施設の収益力向上や新たに安田倉庫グループ入りした関係会社の収益寄与を見込む。
- 物流施設新設やリニューアル関連の費用等により、経常利益・当期純利益では減益も、営業利益は増益に反転させる計画。

連結業績予想（セグメント別）

（単位：百万円）

	営業収益				営業利益			
	23年3月期	24年3月期 予想	増減額	増減率	23年3月期	24年3月期 予想	増減額	増減率
物流事業	53,784	62,150	8,365	15.6%	2,958	3,250	291	9.9%
不動産事業	6,525	6,350	△175	△2.7%	2,062	2,000	△62	△3.0%
調整額	△552	△500	52	-	△2,486	△2,650	△163	-
計	59,756	68,000	8,243	13.8%	2,534	2,600	65	2.6%

3.

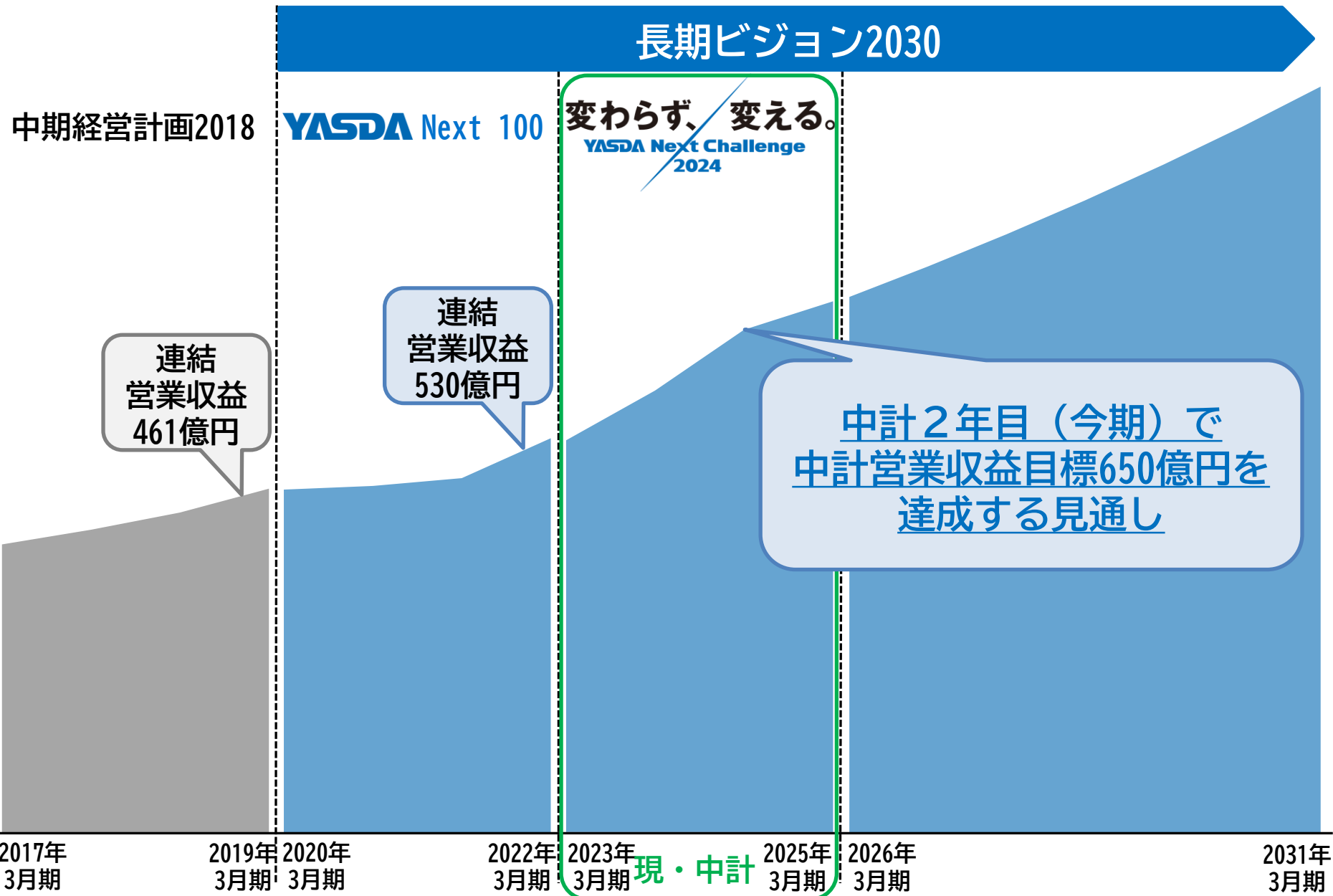
成長戦略（長期ビジョン・中期経営計画）

長期ビジョン2030

世界に誇れるYASDAブランドと革新的テクノロジーの融合で
全てのステークホルダーの期待を超える企業グループを目指す



長期ビジョン2030



2022年度～2024年度中期経営計画の概要

変わらず、変える。

YASDA Next Challenge 2024

● 基本方針

最先端テクノロジーと人間力を融合した、
「YASDA Value」で多様化する社会とお客様ニーズに応える。

YASDA Value = お客様の声に真摯に耳を傾け誠実にお応えする安田倉庫グループで共有する価値

● 基本目標

(単位：百万円)

	22年 3月期	中計最終年度 目標 (25年3月期)	増加額	増加率
営業収益	53,040	65,000	11,959	22.5%
営業利益	2,910	4,000	1,089	37.5%
経常利益	4,037	4,800	762	18.9%
営業 利益率	5.5%	6.2%	0.7pt	-

物流

お客様のビジネス環境に合わせた
最適なサービス提供と、
既存の物流の領域に捉われない
新サービスの創造

不動産

保有不動産の再開発による
収益基盤の更なる強化

経営インフラ

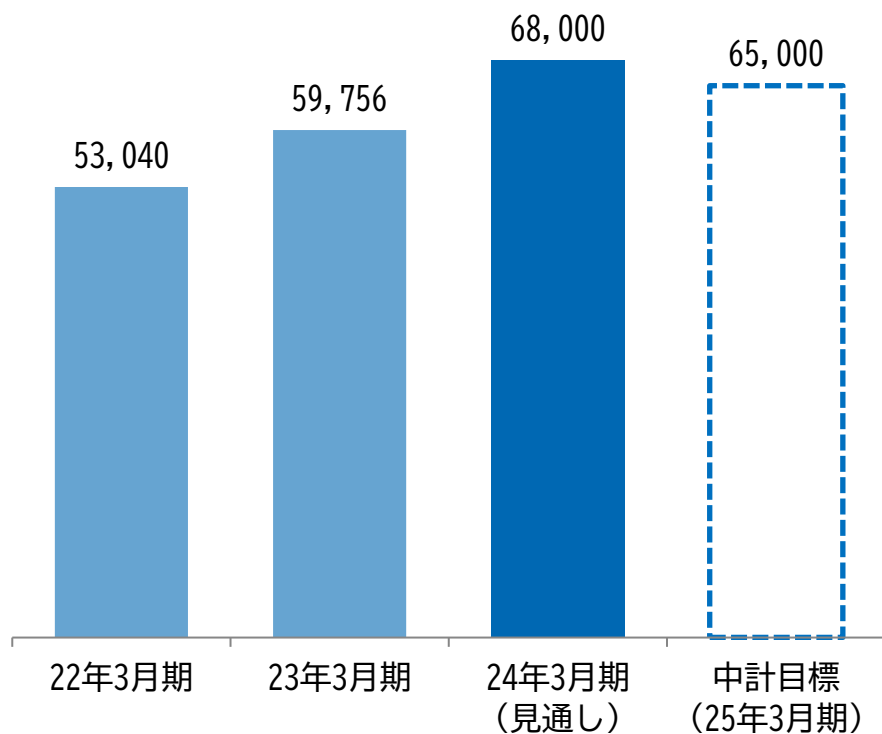
社会環境の変化にも
柔軟に対応できる
サステナビリティ経営基盤と、
確固たる現場力・人間力の確立

中計期間において、計360億円（物流事業280億円、不動産事業40億円、DXおよびシステム40億円）の投資を計画

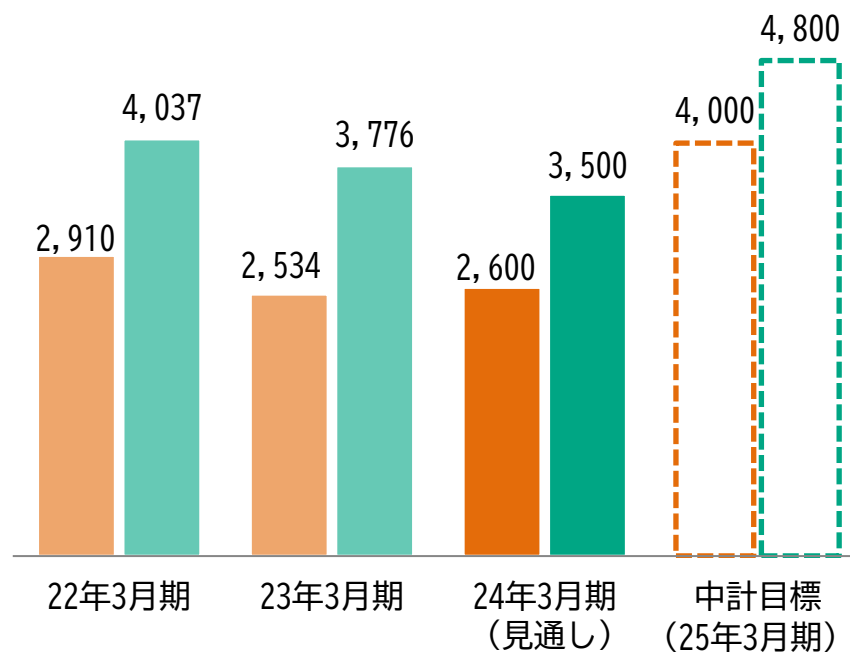
中期経営計画業績進捗

(単位：百万円)

営業収益



営業利益・経常利益



	22年 3月期	23年 3月期	24年 3月期 見通し	中計目標 (25年3月期)
■ 営業収益 ()内は進捗率	53,040 (81.6%)	59,756 (91.9%)	68,000 (104.6%)	65,000

	22年 3月期	23年 3月期	24年 3月期 見通し	中計目標 (25年3月期)
■ 営業利益 ()内は進捗率	2,910 (72.8%)	2,534 (63.4%)	2,600 (65.0%)	4,000
■ 経常利益 ()内は進捗率	4,037 (84.1%)	3,776 (78.7%)	3,500 (72.9%)	4,800

中期経営計画の実現に向けて

2024年問題・労働力不足への対応①

持続可能な輸配送サービスの提供に向け、
運送グループ会社の連携強化や新たな輸送スキームの構築を図る

MAを通じた運送ネットワーク拡充とグループ連携強化



大西運輸
2019年グループ会社化
車両台数：294台
主なエリア
北陸



南信貨物自動車
2021年グループ会社化
車両台数：290台
※パワード・エル・コム分含む
主なエリア
甲信・関東・中京



YSO Logi
2023年グループ会社化
車両台数：65台
主なエリア
関西・関東・九州



安田運輸
車両台数：119台
主なエリア
関東・関西・中京
・九州・東北

23年4月、京都府八幡市を中心に運輸・倉庫業を展開するYSO Logiを新たに安田倉庫グループに迎え、グループ運送会社間での更なる相互連携の強化による運行業務の効率化を図ります。

スワップボディコンテナ 実証実験への参画



中央倉庫、日本トレクス、フジトランスポートと共同での国内初の冷蔵温度帯スワップボディコンテナの実証実験の実施など、ドライバーの労務環境改善と顧客ニーズへの対応を両立させる、新たな長距離輸送スキーム構築に取り組みます。

中期経営計画の実現に向けて

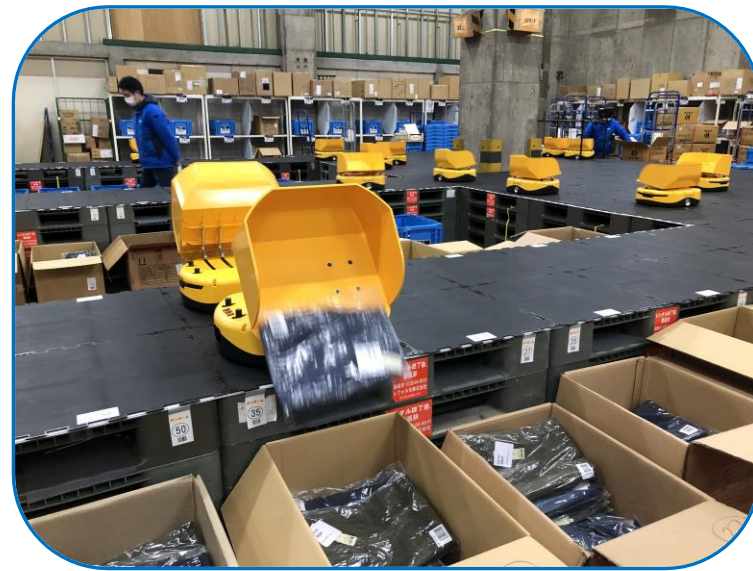
2024年問題・労働力不足への対応②

労働力不足への対応のため、21年2月に設置したDX事業推進室のもと、物流現場の省人化・AI技術の導入や実証実験に取り組む

物流現場の省人化事例



重量貨物を積載したカゴ台車を搬送する
AGV（自動搬送車）



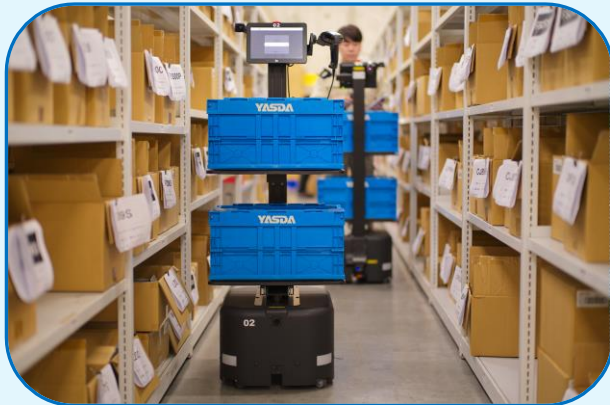
貨物の納品先毎に仕分け作業を行う次世代型ロボットソーター

中期経営計画の実現に向けて

2024年問題・労働力不足への対応③

AI技術の導入

- ロボット群制御AIで稼働するAMR・無人フォークリフトの導入



作業者と協働して貨物のピックアップを行うAMR（自律走行搬送ロボット）の導入



無人フォークリフトの導入

「DX認定事業者」の認定取得



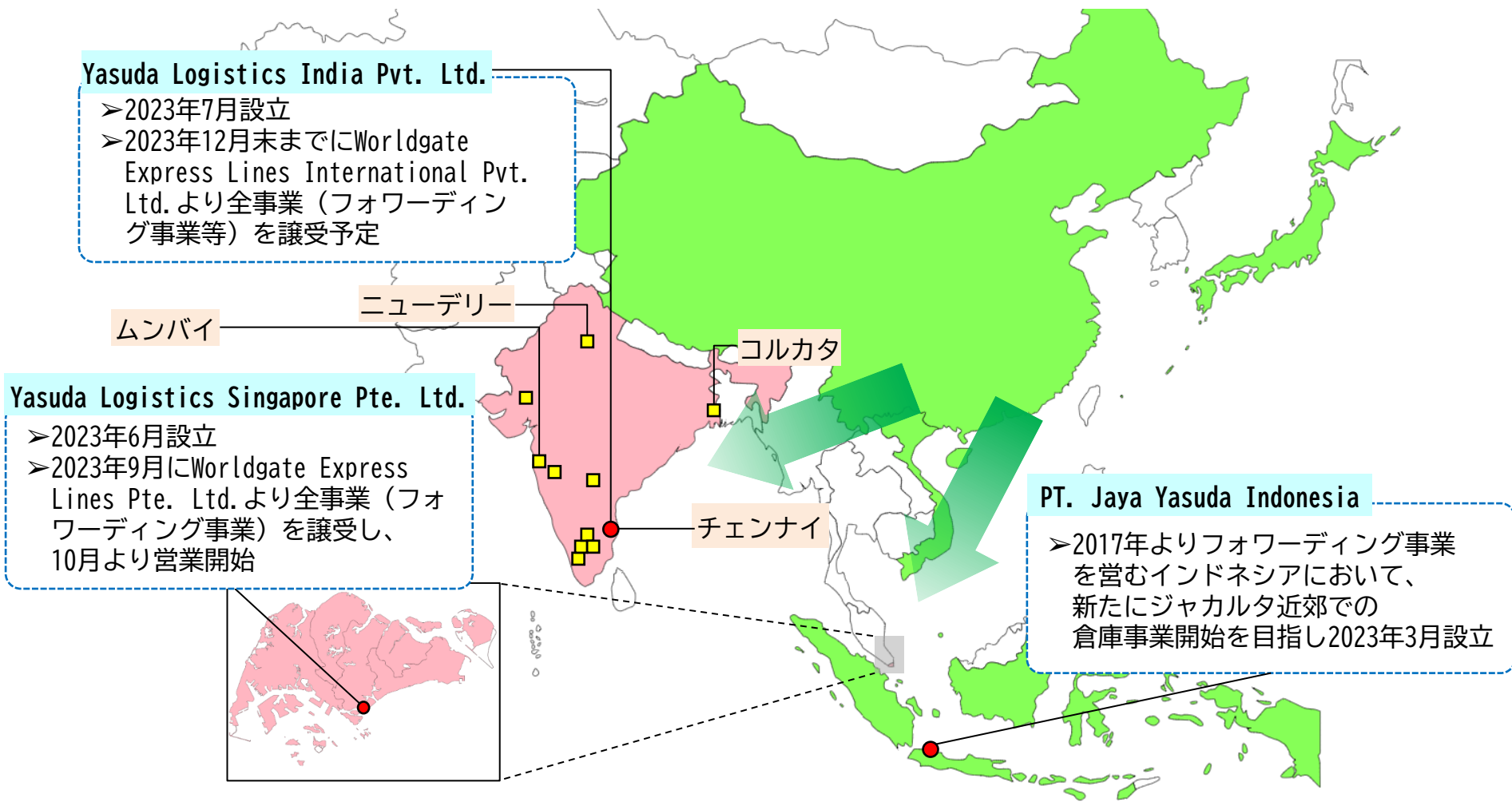
DX認定

安田倉庫のDXに関する取組みなどが評価され、2023年11月1日付で、経済産業省が定める「DX認定制度」に基づき、「DX認定事業者」の認定を取得しました。

中期経営計画の実現に向けて

海外ネットワークの拡充

アジア太平洋地域におけるネットワークの拡充に向けて、MAを通じたインド、シンガポールにおける事業展開と、インドネシアにおける倉庫事業の開始を目指す



中期経営計画の実現に向けて

MA・アライアンス戦略（メディカル物流）

医薬品・医療機器のノウハウの融合を通じたメディカル物流の更なる強化

23年3月、エーザイ物流のグループ会社化



安田ロジファーマ（旧エーザイ物流）本社

エーザイグループ製品の物流関連業務や、ほか医薬品メーカーの物流業務を担うエーザイ物流と安田倉庫グループが有する医薬品物流ノウハウ、物流施設、配送ネットワークを組み合わせることで、国内屈指の医薬品物流プラットフォームを構築し安定した総合メディカルサービスの提供を目指します。

23年10月より「安田ロジファーマ」に商号変更しました。

22年11月、ニューロシューティカルズへの出資



ニューロシューティカルズが取り扱うCTスキャン

大学・研究機関等から医療分野における様々なニーズを汲み取り、治療・診断機器の開発から日本国内での製造支援、海外からの輸入調達を行う医療機器開発ベンチャーであるニューロシューティカルズへの出資を通じ、メディカル物流サービスの拡充や更なる業容の拡大を目指します。

中期経営計画の実現に向けて

物流拠点の更なる拡充（加須新倉庫の新設）

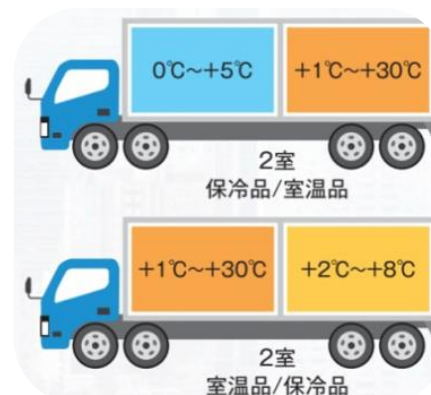
2024年春、医薬品専用の輸配送網と、医薬品管理に必要なGDPを備えた新たな医薬品物流拠点が竣工予定



所在地	埼玉県加須市北大桑
敷地面積	約21,400㎡（約6,400坪）
延床面積	約41,700㎡（約12,600坪）
主要構造	鉄骨造（免震構造）
階数	倉庫4階建



医薬品専用車両



医薬品特性に合わせた二層式車両

中期経営計画の実現に向けて

物流拠点の更なる拡充（羽田メディカルロジスティクスセンターの新設）

医療機器総合ワンストップサービスの提供拠点として
東雲、辰巳に続く新拠点を羽田空港至近エリアに設置予定



物流事業者として初の医療機器修理業許可
（修理区分特管第1～8区分まで）取得により
医療機器総合ワンストップサービスが実現

2020年 東京メディカルロジスティクスセンターⅠ
（東雲営業所）開設



2021年 東京メディカルロジスティクスセンターⅡ
（辰巳倉庫）開設



今後 羽田メディカルロジスティクスセンター
（〔仮称〕羽田営業所）開設予定



イメージ図

中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大①

テレワークの浸透を背景に成長するIT機器ライフサイクルマネジメント

調達処理はお客様にて対応頂きますが、
その他のライフサイクルにおける業務について
トータルでご支援致します。



企業において近年増加する、PC、スマートフォン、タブレットなどのIT機器の管理運用業務について、資産・在庫管理、キットティング、設置・導入、運用・保守、回収、データ消去、廃棄といったライフサイクルにかかる一連の業務をお引き受けする「IT機器ライフサイクルマネジメント」サービスを提供しております。



PCキットティング



スマートフォン
キットティング

中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大②

企業の自社ECによる販売戦略をサポートするECセンター

ノウハウ

ギフト商戦に強い自社ECを可能にする
流通加工サービス



ギフト包装



メッセージカード同封



システム

EC固有の様々なニーズに対応できる
EC専用倉庫管理システムの開発



体制

平日・休日問わず短納期の実現のため
拠点集約による休日作業体制構築



22年4月、大黒営業所内に
ECセンターを開設

中期経営計画の実現に向けて

変化する社会のニーズに応じた物流サービスの拡大③

企業の働き方改革に貢献するBPOサービス



22年9月、芙蓉総合リースとBPOサービス事業分野において業務提携いたしました。業務提携の第一段として芙蓉総合リースのBPO事業関連子会社NOCアウトソーシング&コンサルティングが提供する総務アウトソーシングサービス「Somove（ソームーブ）」のサービスメニューとして、当社オフィスサポート事業の「文書保管サービス」、「オフィス移転サービス」が掲載されております。



文書保管・文書電子化サービス



オフィス移転サービス



※BPO=ビジネスプロセスアウトソーシング

芙蓉総合リースと共同で、バックオフィスの負荷軽減による働き方改革に貢献する新たなビジネスの展開を目指す

中期経営計画の実現に向けて サステナビリティの取り組み① 気候変動への対応

情報開示

TCFD提言への賛同表明



22年6月TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に賛同表明し、当社HP上で気候変動関連情報の開示を開始。具体的な開示内容は以下よりご覧ください。

[TCFD提言への取り組み](#)



CDP スコア「C」の評価

企業に対して気候変動情報開示を求める国際イニシアチブであるCDP（Carbon Disclosure Project）より、「気候変動問題について自社への影響を考慮しており問題の内容を深く理解している。具体的な行動につなげるために重要な段階」として「C」スコアの評価をいただきました。今後も気候変動への対応深化に向けて取り組んで参ります。

取組み

東京都地球温暖化対策優良事業者 2022年度「SSランク」の評価



2022年度 SSランク

東京都内事業所の直近5か年度におけるCO₂排出量の平均削減率等が評価され、東京都より地球温暖化対策において「極めて優良な事業者」（SSランク）の評価を獲得しました。

CO₂の更なる削減に向けて

[当社グループCO₂排出量削減目標](#)達成に向けた取り組みとして、算定ツール導入によるCO₂排出量の「見える化」や、CO₂を排出しない電力への切替を進めます。



CO₂排出量は、アスエネ株式会社の「アスゼロ」にて算出しています。



東京メディカルロジスティクスセンター（東雲営業所）屋上への太陽光発電設備設置を予定しております。

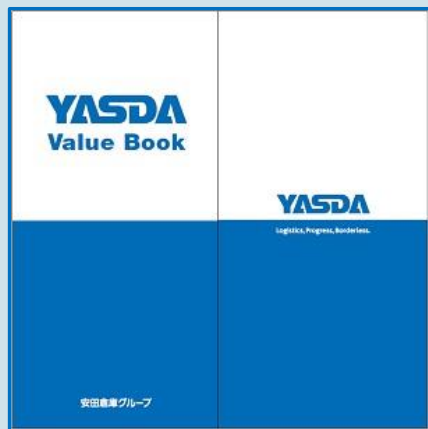
中期経営計画の実現に向けて

サステナビリティの取組み②

多様な人材が人間力を最大限発揮できる職場の実現

理念の浸透

YASDA Value Book

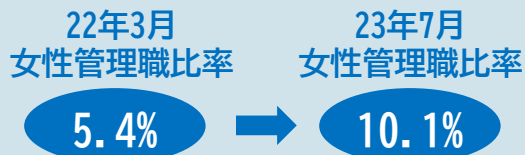


企業理念、行動指針、経営計画を体系的に整理し、安田倉庫グループの価値観、行動基準、目標を認識し、振り返る原点として、「YASDA Value Book」(日本語版・中国語版・英語版)を発行し、グループで働く全ての方に共有しています。

人材育成・ダイバーシティ

女性活躍推進

女性管理職割合10%以上(26年3月末)を掲げ、管理職候補への女性活躍研修や女性が働きやすい体制・環境整備を進めます。



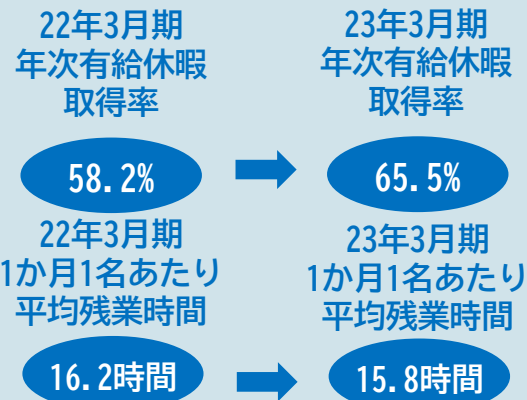
キャリア採用者の積極登用

高い専門性や異業種での経験を有する多様な人材確保と、入社後のキャッチアップ研修による人材育成をおこなっております。

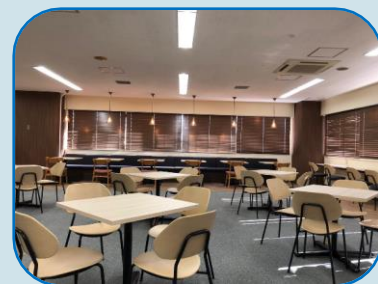
働きやすい職場環境整備

働き方改革推進

業務や働き方の見直しにより、有給休暇取得や残業時間削減を推進しております。



倉庫営業所への カフェテリア設置

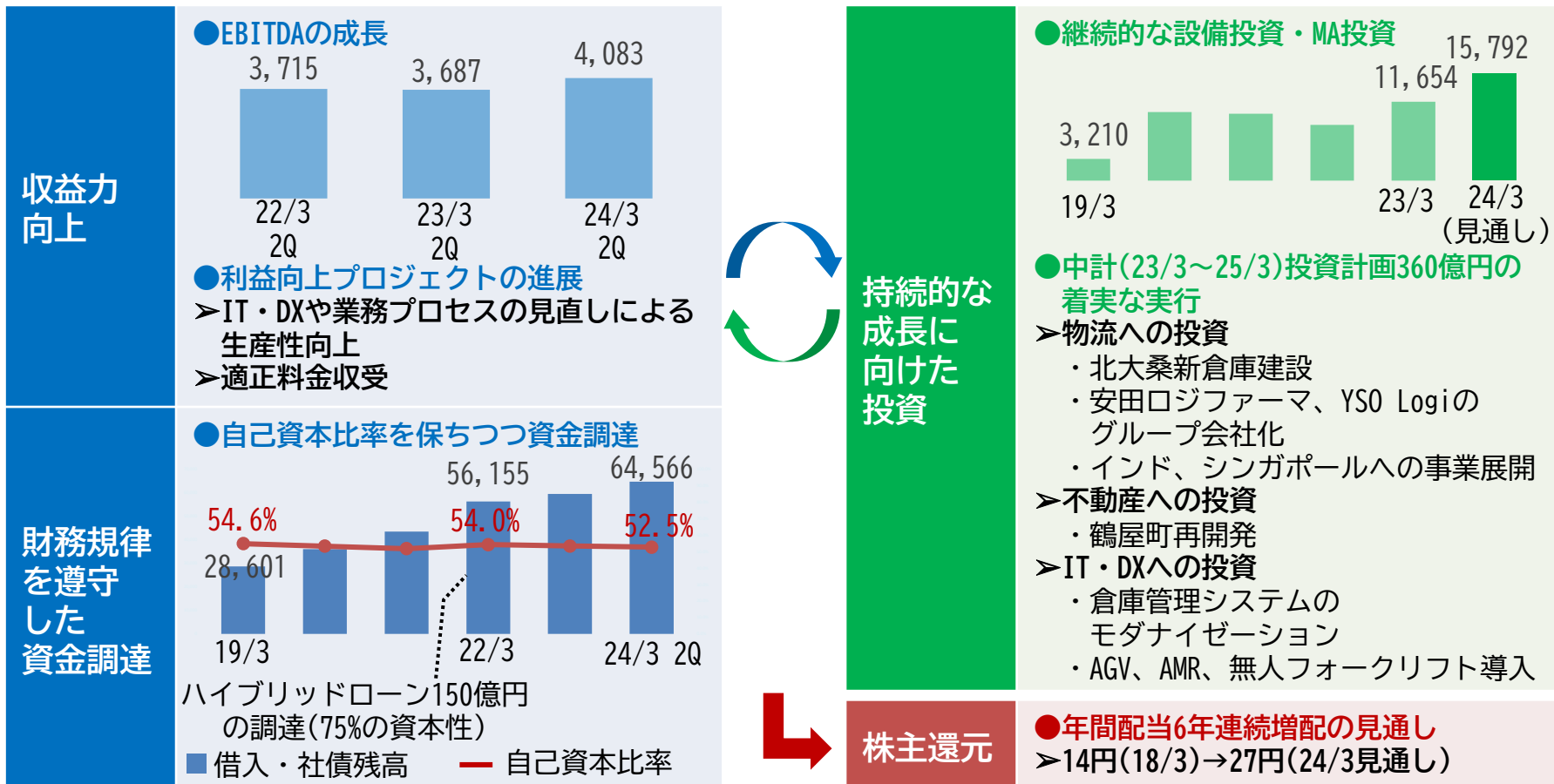


4.

企業価値向上・株主還元

中長期的な企業価値向上に向けて

➤ 成長投資と収益力向上の好循環を通じた資本効率の向上



➤ IR活動を通じた株主・投資家の皆様との対話 ⇒ 取組み状況は[こちら](#)



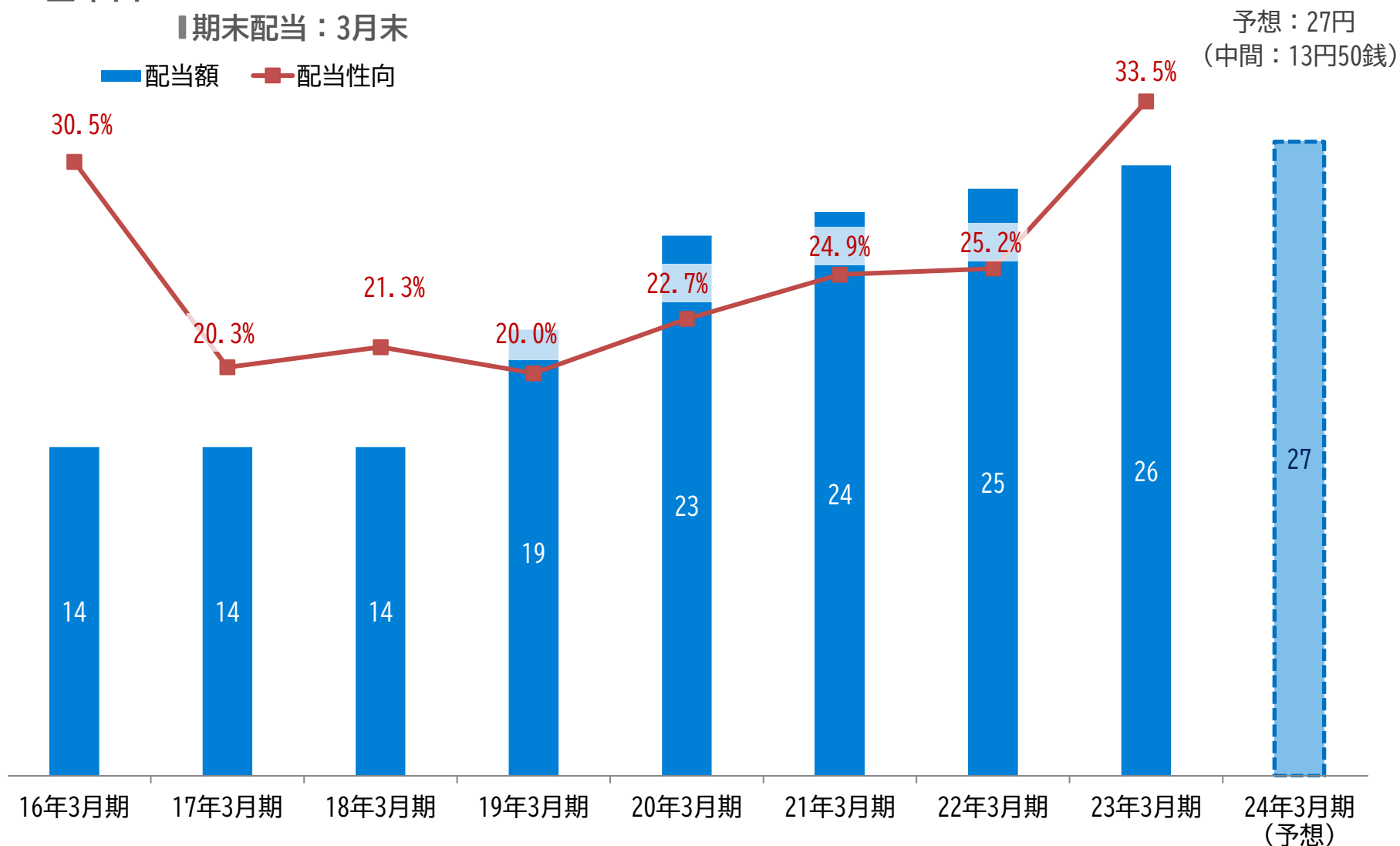
資本効率の向上とIR活動の強化を通じ、中長期的に企業価値向上を図る

株主還元

安定配当を基本としつつ、企業価値向上を通じ中長期的に高める

<基準日> ■ 中間配当：9月末
■ 期末配当：3月末

■ 配当額 ■ 配当性向



安田倉庫について

会社概要

会社名	安田倉庫株式会社 Yasuda Logistics Corporation
所在地	東京都港区芝浦三丁目1番1号 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 29階
創立	1919年12月20日
代表者	代表取締役社長 藤井 信行
事業内容	倉庫業、運送事業、不動産業
資本金	3,602,100千円
市場	東証プライム（証券コード：9324）
従業員数	単体 478名 連結2,212名（2023年9月末）
グループ会社	23社（国内16社 海外7社）
決算月	3月



msb Tamachi
田町ステーションタワーN

企業理念・コーポレートスローガン

安田倉庫グループ企業理念



安田倉庫コーポレートスローガン

Logistics, Progress, Borderless.

お客様と共にグローバルなロジスティクスカンパニーに成長すべく、当社グループが一体となり、その一人一人が従来の事業の枠にとらわれることなく常に発展・成長を続け、物流を進歩させていく決意を表しています。

100年を超える歴史

1919年

興亜起業(株)
として創立



安田善次郎



守屋此助

1942年

社名を
安田倉庫(株)
に改称



函館常備倉

2005年

東証1部
上場



2019年

創立100周年



大西運輸・オオニシ機工
のグループ化決定



大西運輸



オオニシ機工

2020年
と
2021年

東京メディカル
ロジスティクス
センター
I・II開設



南信貨物自動車Gの
グループ化



2022年

東証
プライム
移行



2023年

安田ロジファーマ・YSO Logiのグループ化



安田ロジファーマ
インド・シンガポールへの進出決定



YSO Logi



様々なサービスを提供する総合物流企業



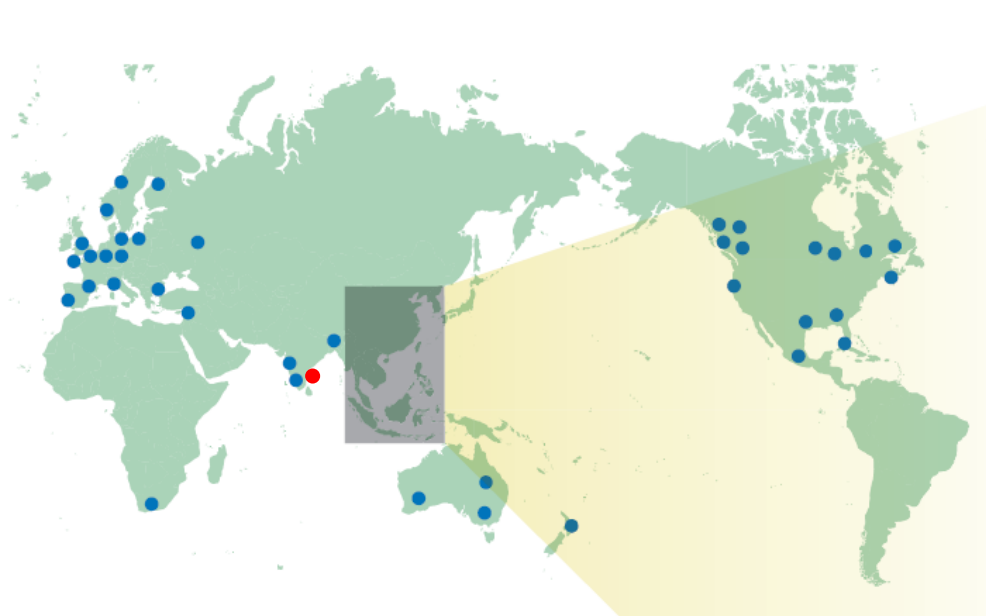
日本全国をカバーする国内ネットワーク

東西の主要拠点により持続的なサプライチェーンを提供



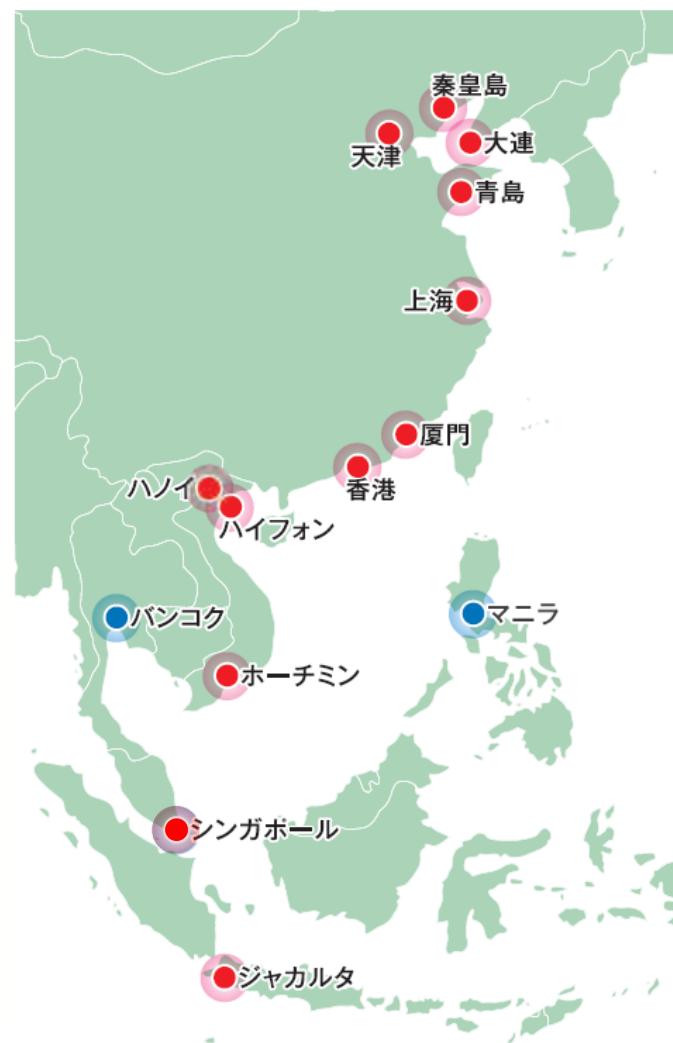
● 国内倉庫拠点 計：23拠点
 ● 関係会社 計：29拠点

中国・ASEANを中心に世界各国へ展開するネットワーク

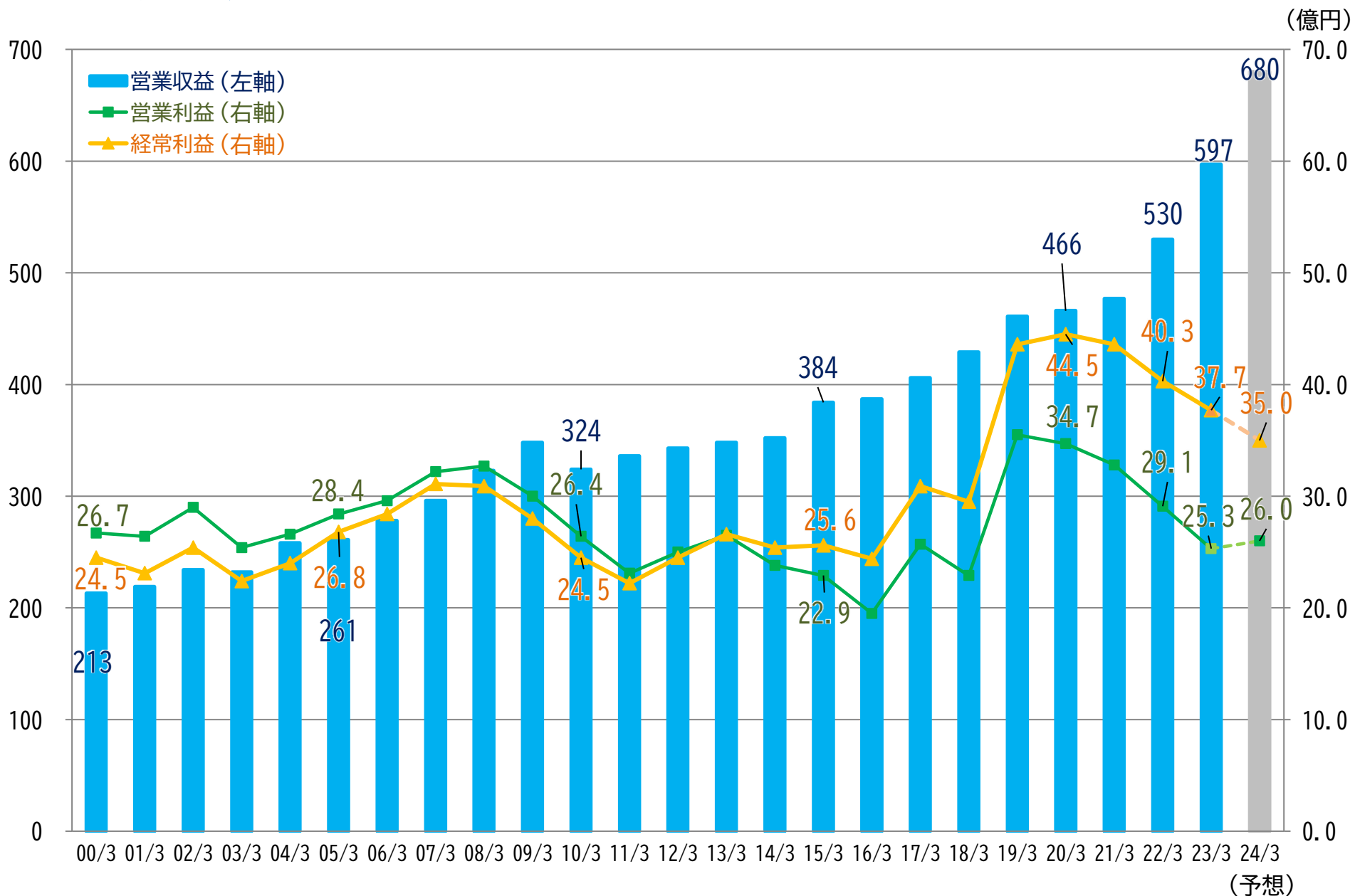


安田物流(上海)有限公司

中国・ASEAN 拡大図 ● 自社拠点 ● 代理店



業績推移

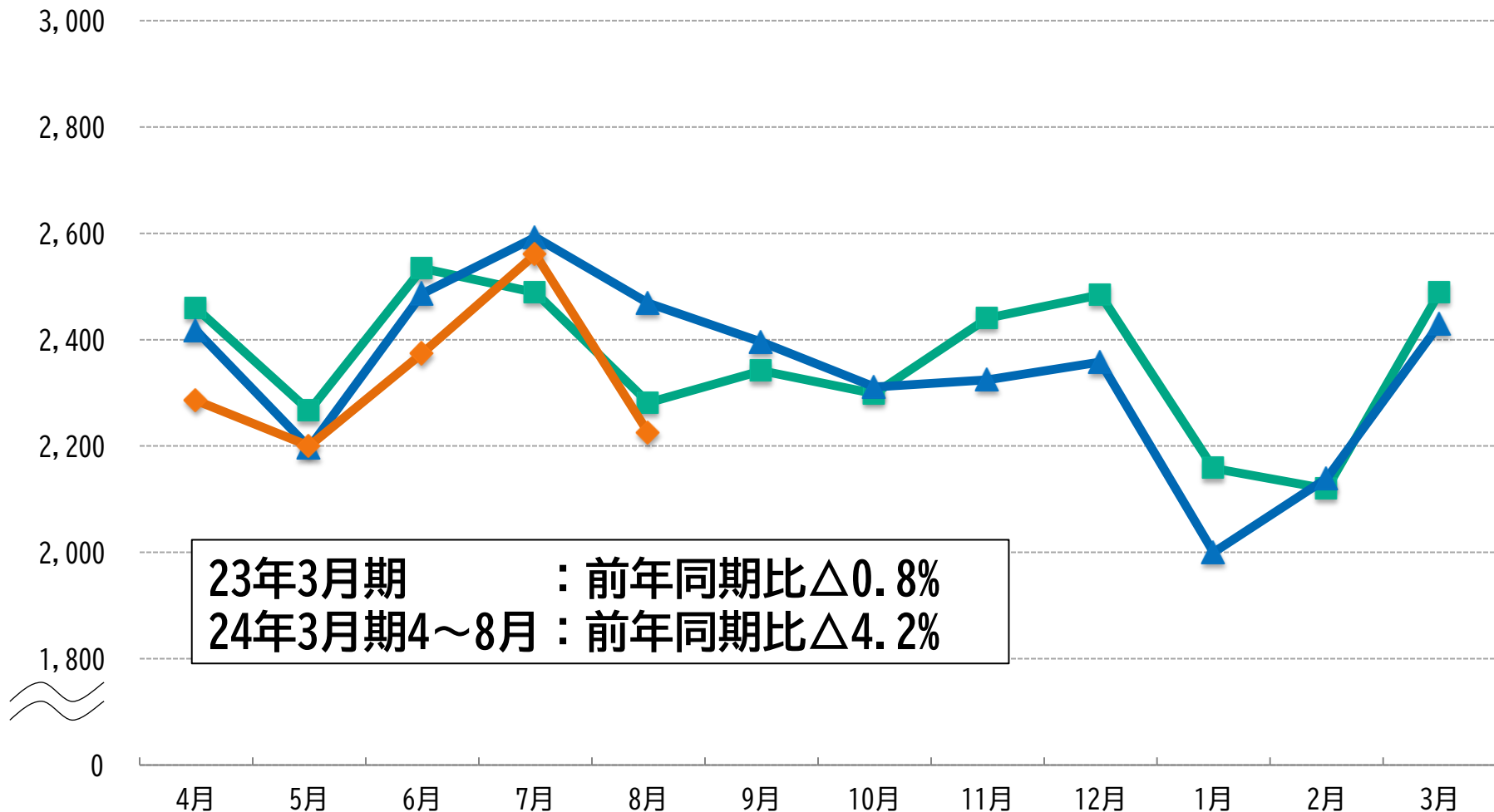


事業環境データ集

普通倉庫 21 社統計 入庫高

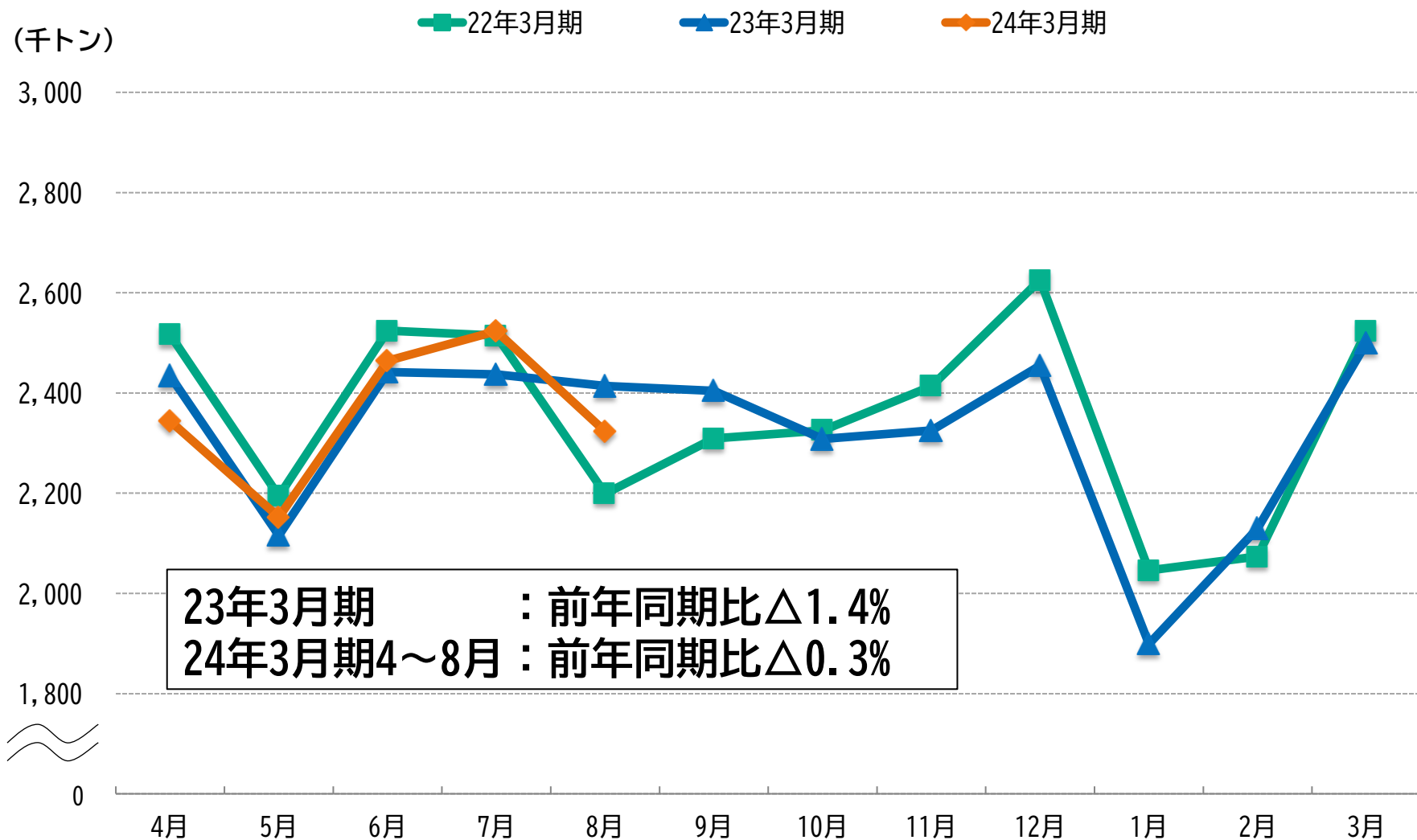
(千トン)

■ 22年3月期 ▲ 23年3月期 ◆ 24年3月期



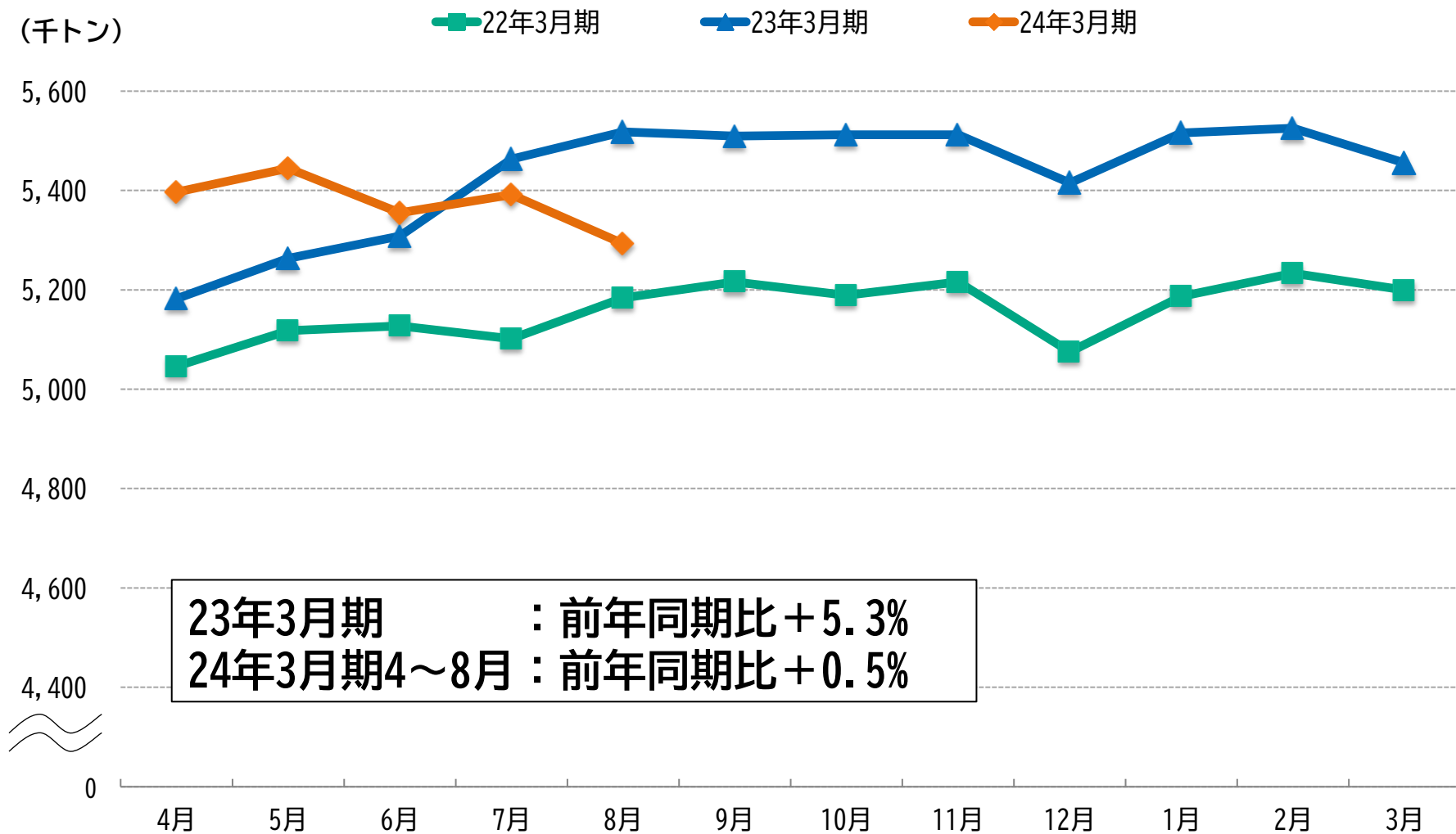
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

普通倉庫 21 社統計 出庫高



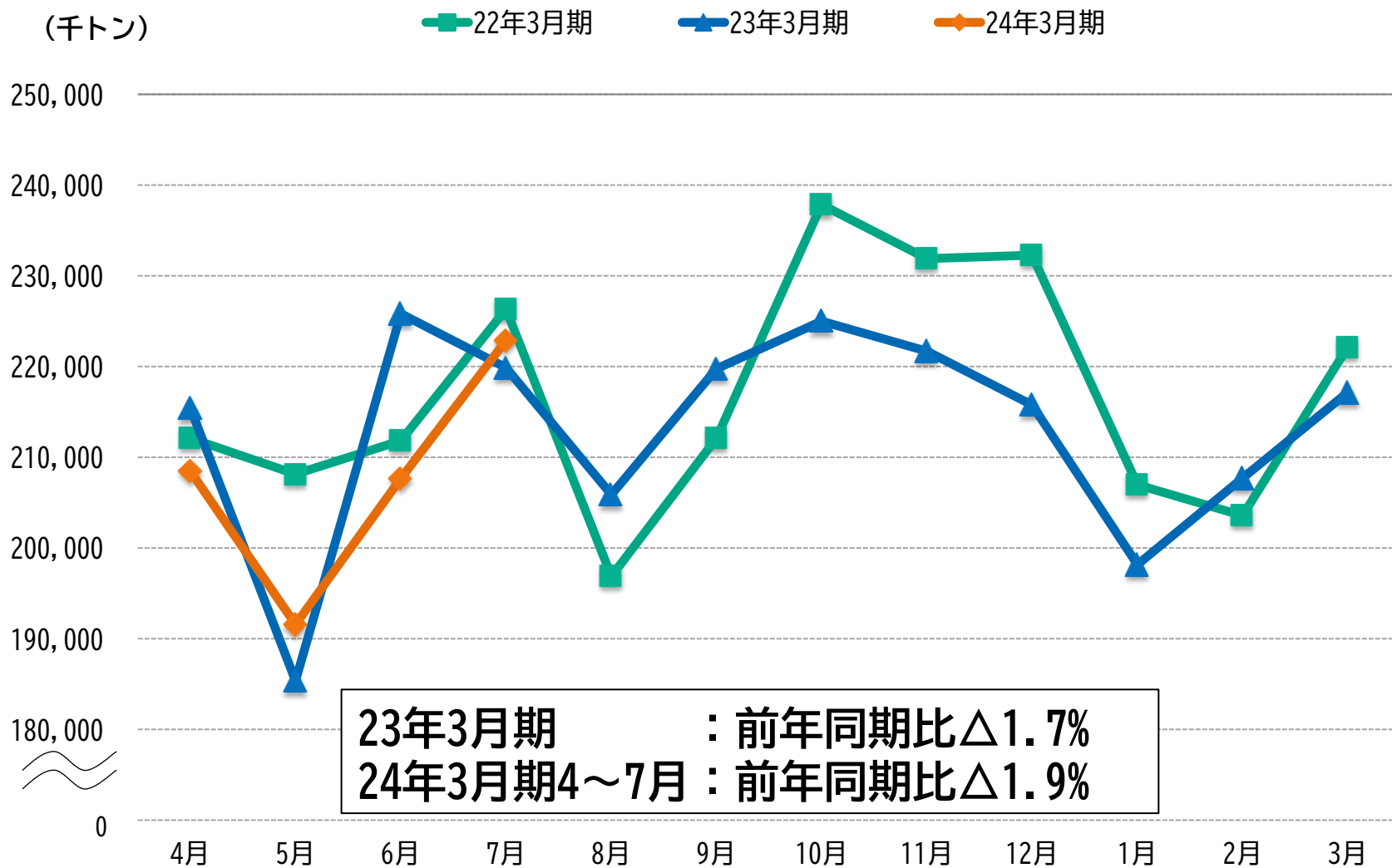
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

普通倉庫 21 社統計 保管残高



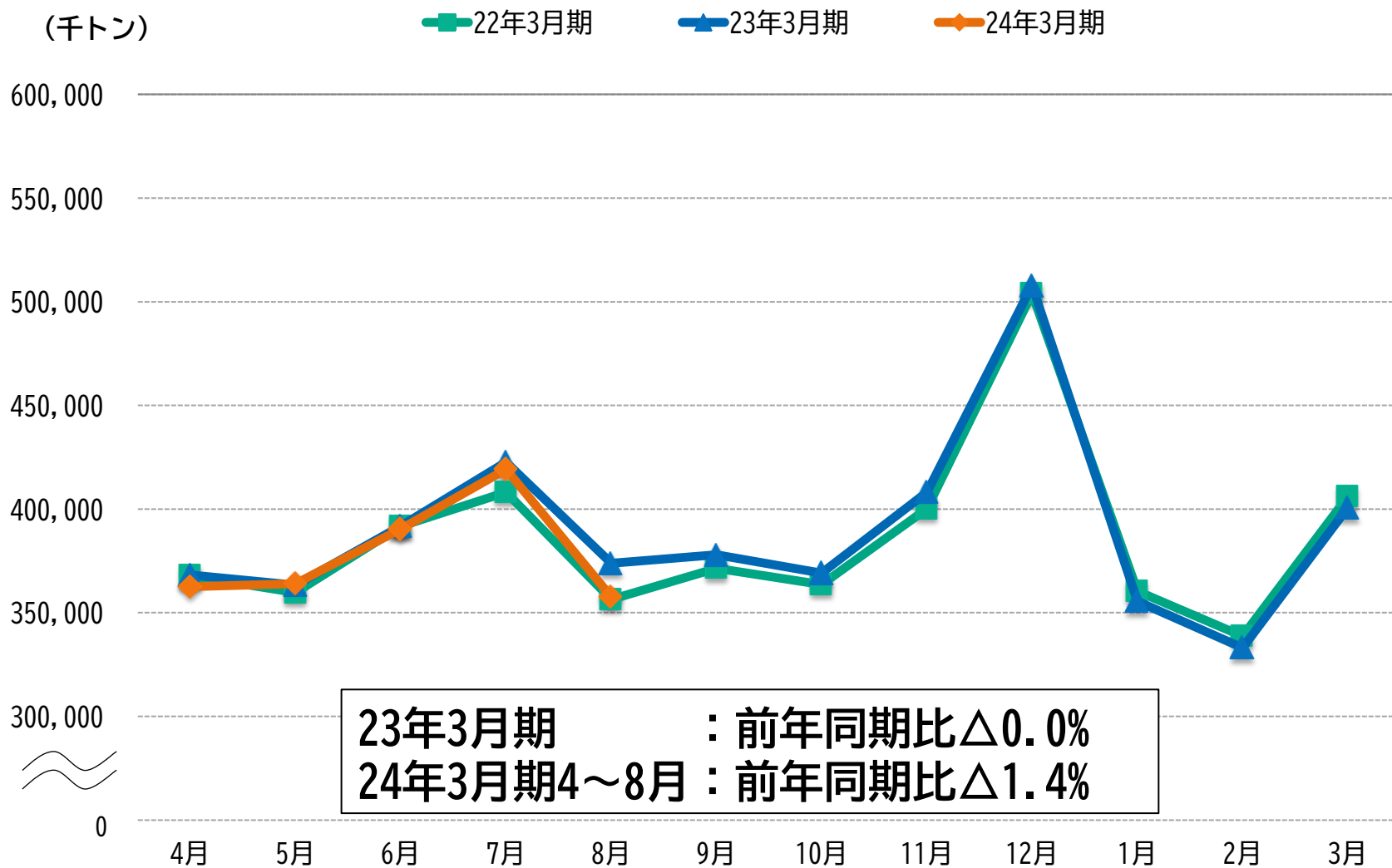
データ出典：一般社団法人 日本倉庫協会

営業用自動車貨物輸送トン数



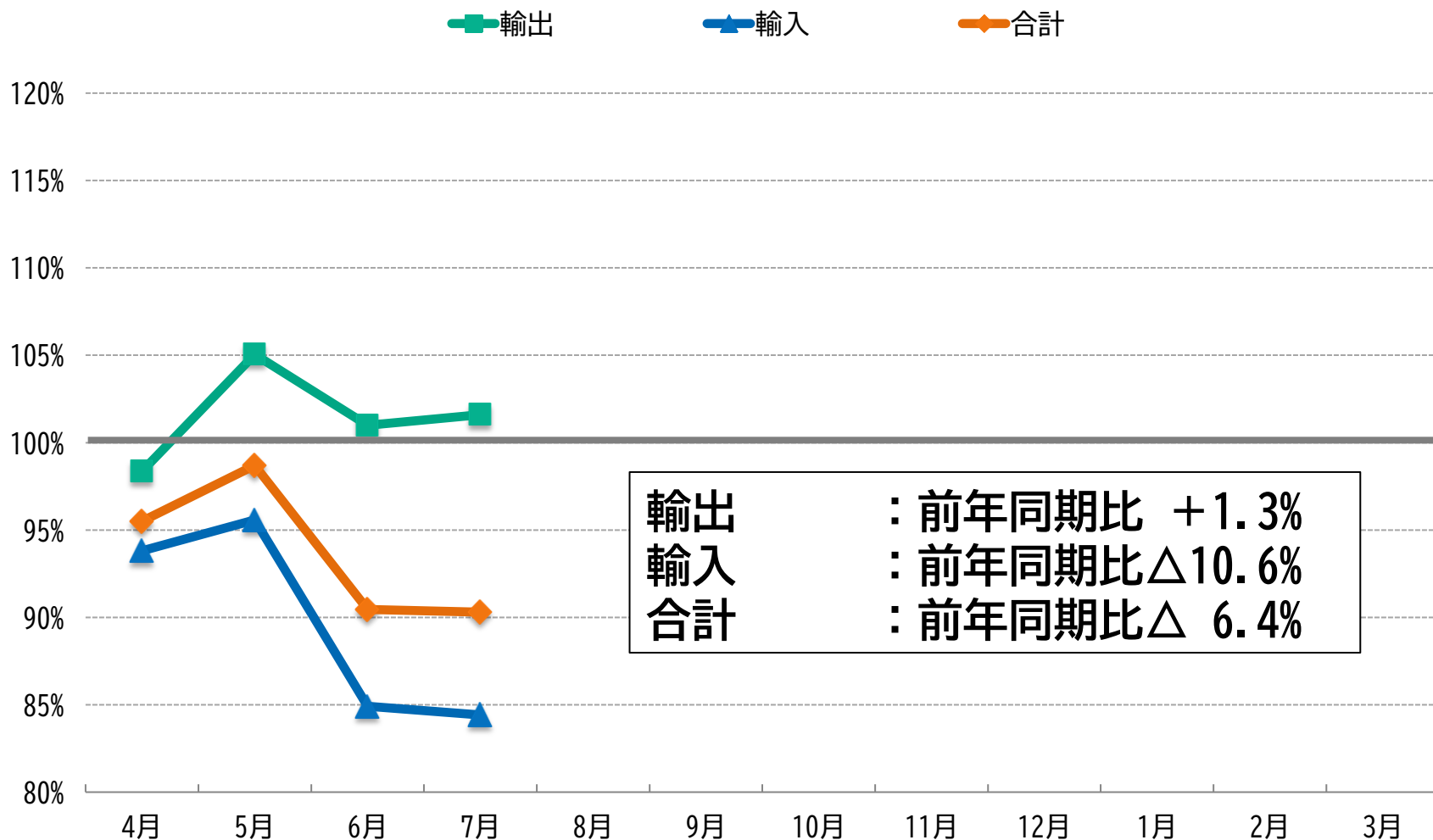
データ出典：国土交通省 自動車輸送統計調査

宅配便貨物取扱個数



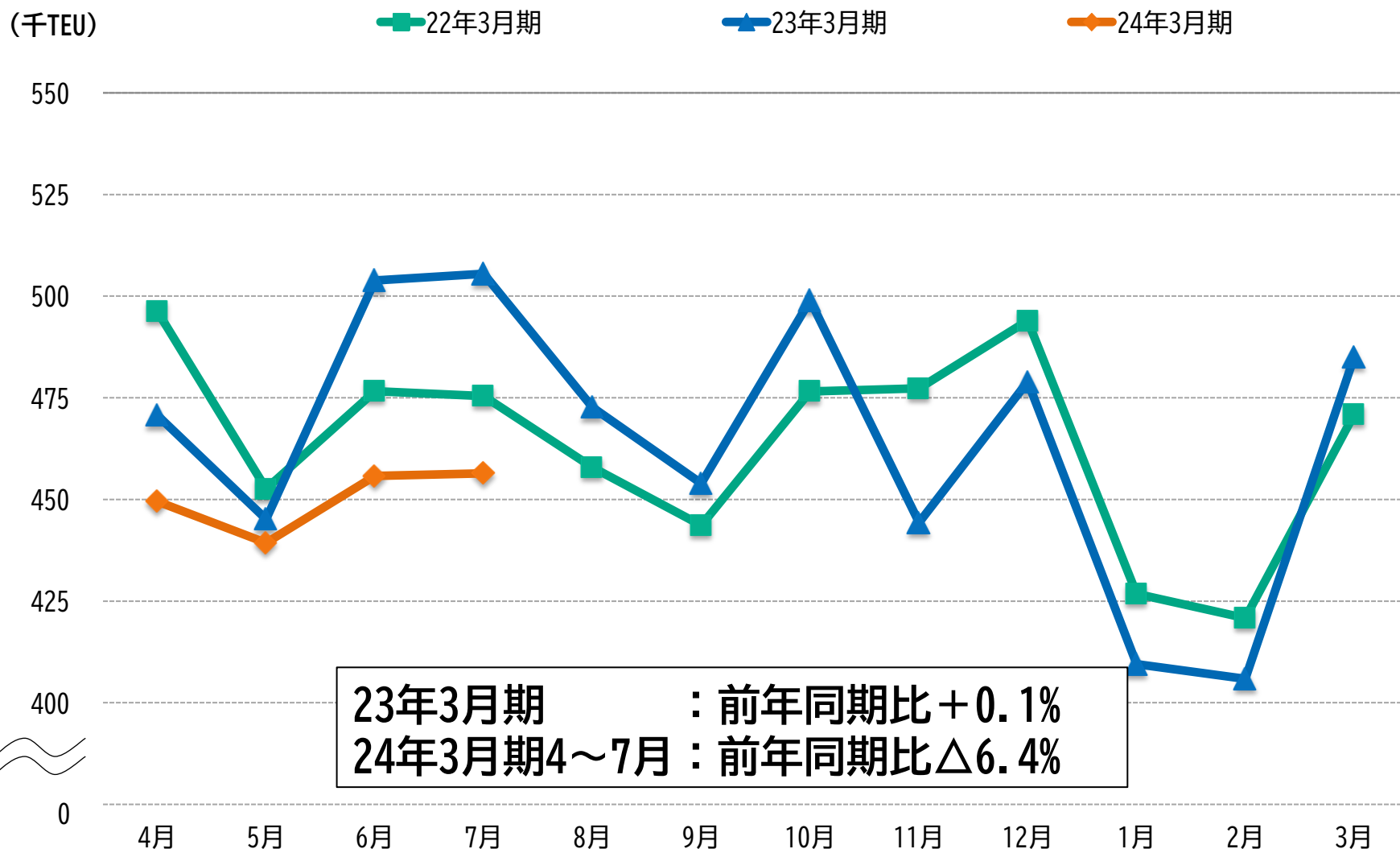
データ出典：国土交通省 国土交通月例調査

京浜港コンテナ取扱本数 前年同月比



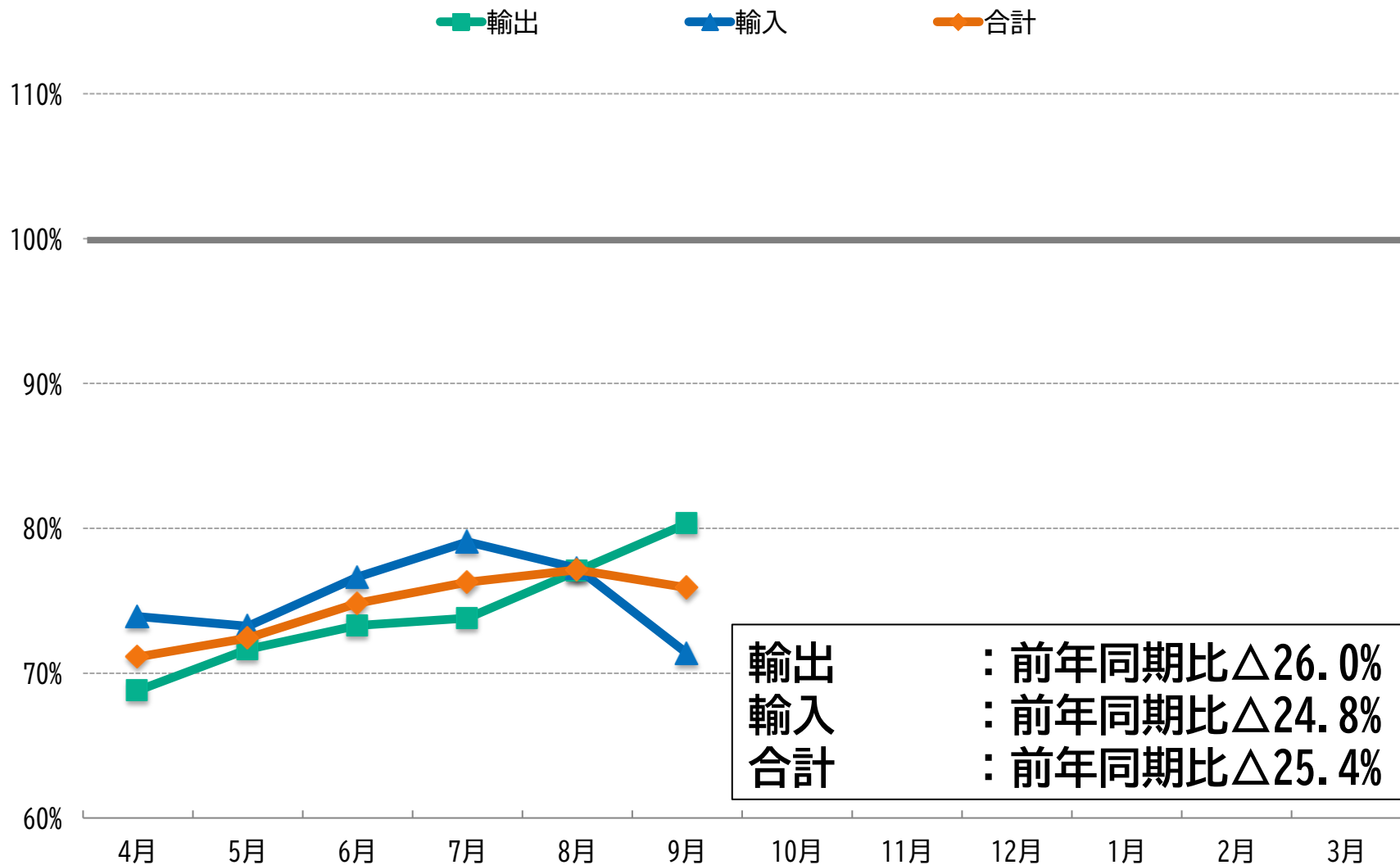
データ出典：東京都港湾局 港湾統計、横浜市港湾局 横浜港の統計

京浜港コンテナ取扱本数 輸出入合計



データ出典：東京都港湾局 港湾統計、横浜市港湾局 横浜港の統計

国際航空貨物取扱量（t数ベース） 前年同月比



データ出典：一般社団法人 航空貨物運送協会

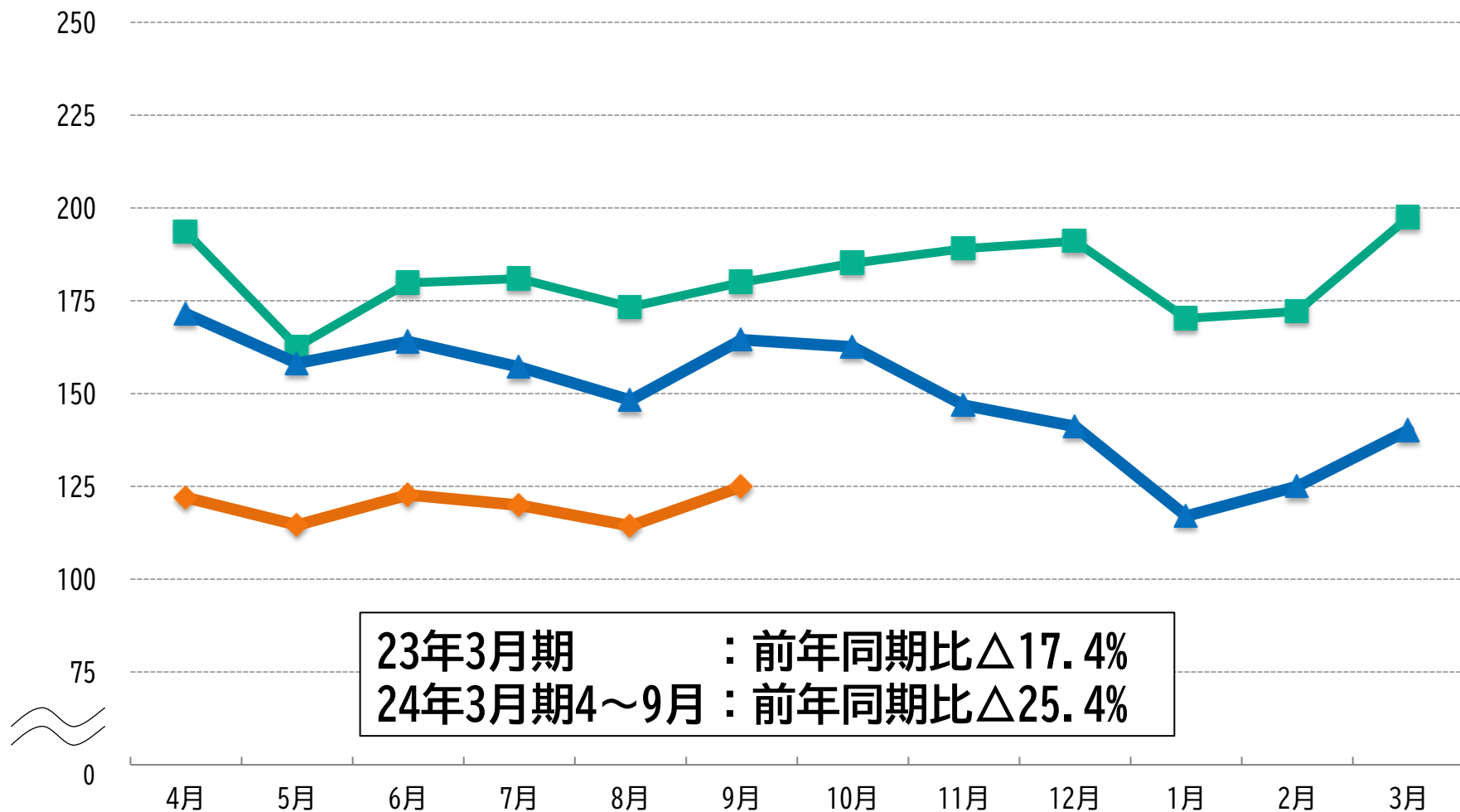
国際航空貨物取扱量 輸出入合計

(千トン)

■ 22年3月期

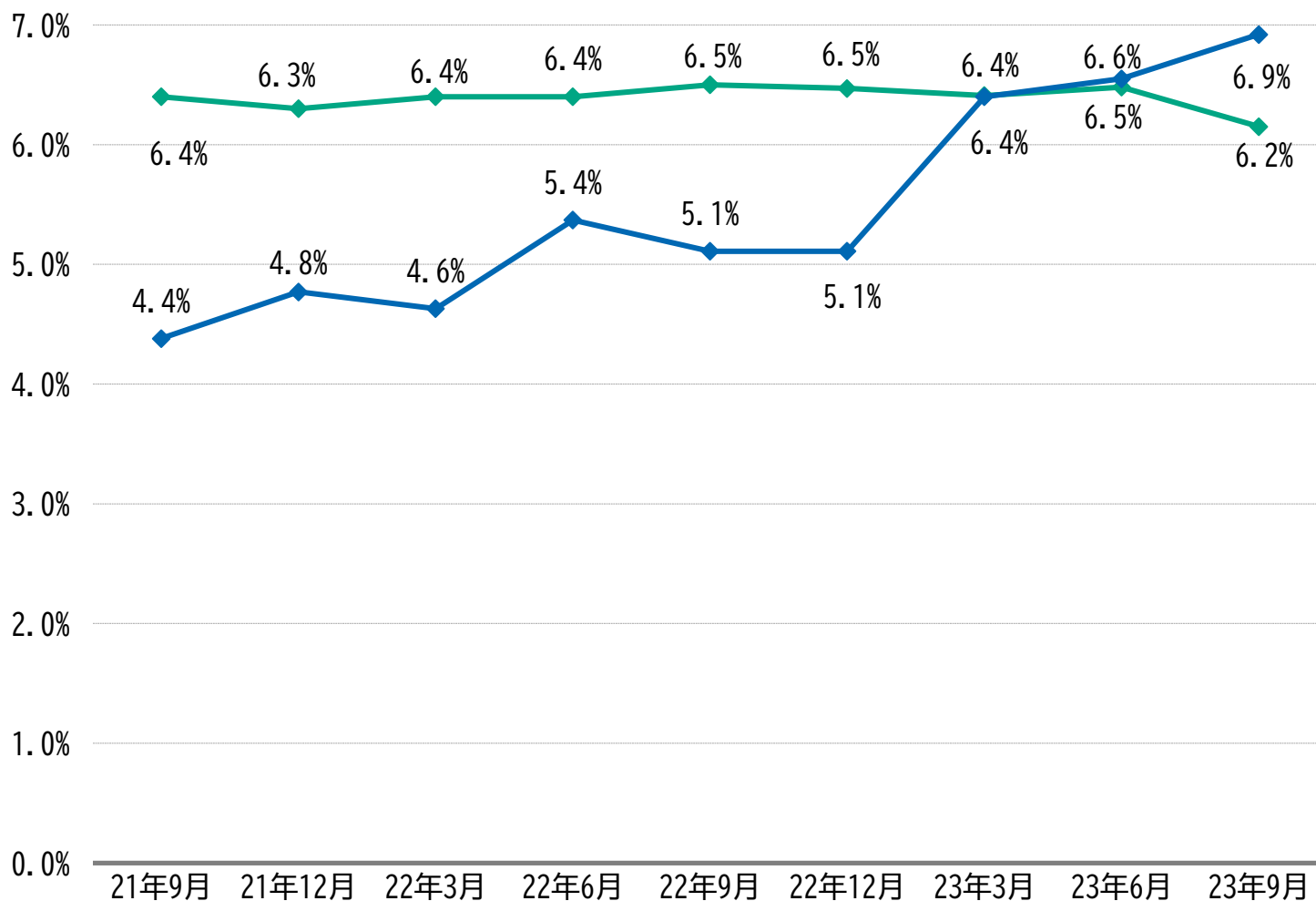
▲ 23年3月期

◆ 24年3月期



データ出典：一般社団法人 航空貨物運送協会

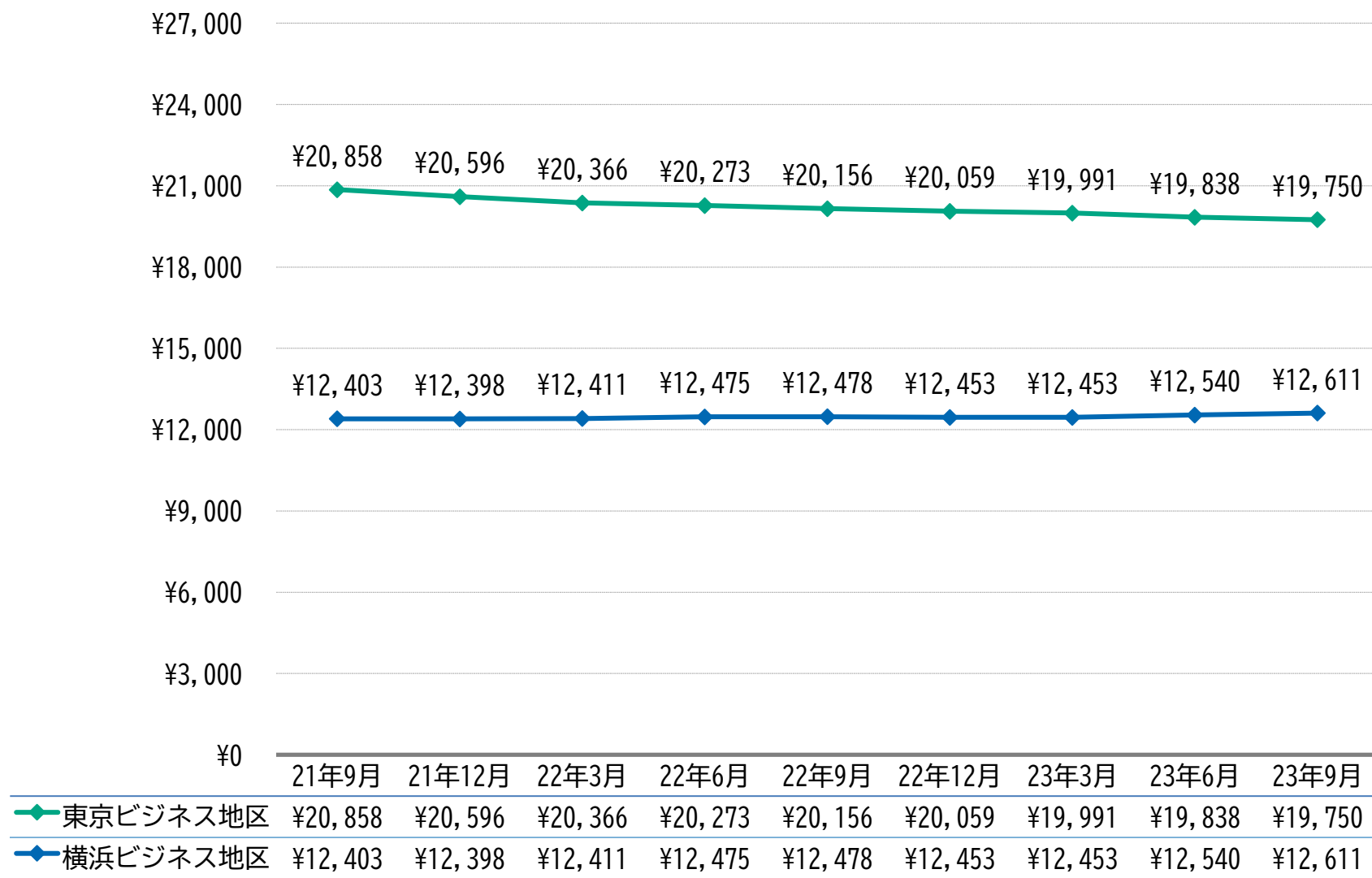
不動産 空室率



東京ビジネス地区	6.4%	6.3%	6.4%	6.4%	6.5%	6.5%	6.4%	6.5%	6.2%
横浜ビジネス地区	4.4%	4.8%	4.6%	5.4%	5.1%	5.1%	6.4%	6.6%	6.9%

データ出典：三鬼商事株式会社 市況・データ情報

不動産 募集賃料相場（円／坪）



データ出典：三鬼商事株式会社 市況・データ情報

いま見える未来は、超えていける。

安田倉庫は、挑戦を続けます。

国境も、従来の物流の枠も超える、ボーダレスなロジスティクスカンパニーへと進化するために。

そして、お客様が思い描く事業と社会の新しいかたちを創造するために。



Logistics, Progress, Borderless.

YASDA

安田倉庫株式会社

当資料は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当資料は、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。

将来の業績は、経営環境等の変化に伴い、目標や計画に対し変化し得ることにご留意下さい。

投資を行う際には、必ず弊社が作成する有価証券報告書等をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。